



本取扱説明書を熟読し、内容を理解してから
当製品を運転、点検、整備してください。

取扱説明書

振動ローラ

MODEL **HV** シリーズ **HV520 HV620**

適用号機 HV520 → 5HV22 - 10861 以降
HV620 → 5HV23 - 10998 以降

SAKAI®

まえがき

この取扱説明書は、ハンドガイド振動ローラ サカイ HV シリーズをご使用いただくためのガイドブックです。SAKAI 製のハンドガイド振動ローラを初めてお使い頂く方はもちろん、すでにご使用になられた経験をお持ちの方にも知識や経験を再確認する上で実際にお役に立つものと考えております。

この取扱説明書で説明しておりますシリーズ機は、次の通りです。

HV520, HV620

この取扱説明書をよくお読みにになり、内容を十分に理解された上で実際にご使用くださいますようお願いいたします。また、お読みにになった後も、必ず製品に近接して保管してください。

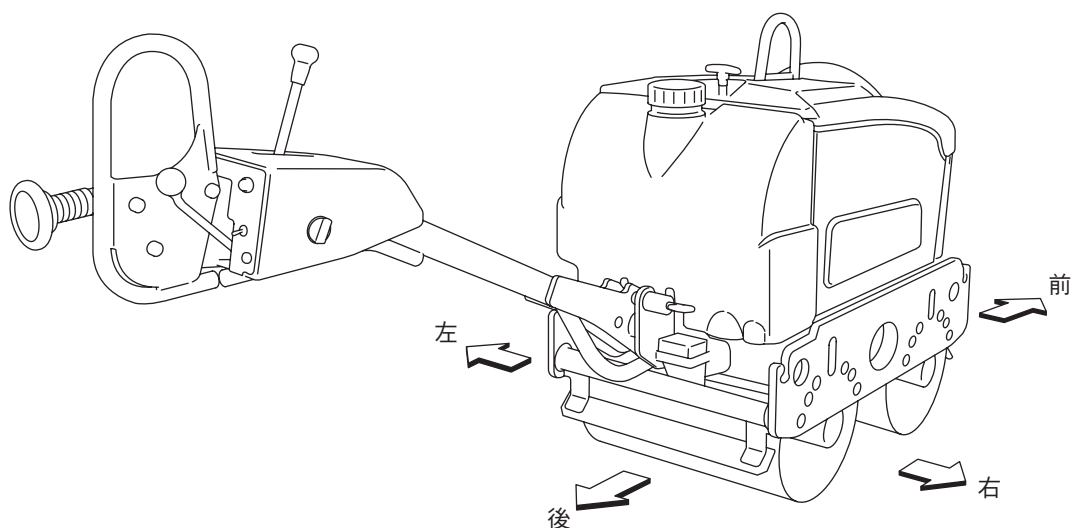
この取扱説明書の主な内容は、ハンドガイド振動ローラ サカイ HV シリーズの (1) 安全についての基本的注意事項、(2) 操作取扱、(3) 日常の保守、(4) 諸元 からなっています。

なお、エンジンの取扱・保守については別冊「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

本機を他人に貸したり、使わせる場合は、取扱い方法をよく説明し、また、あらかじめこの「取扱説明書」を読むように指導してください。本機を譲渡する場合には、この「取扱説明書」および「エンジン取扱説明書」を共に譲渡してください。

ハンドガイド振動ローラの設計内容に関する不断の研究改良の結果、この取扱説明書の内容の中に、お買上げの製品と詳細において異なる場合があります。お買上げの製品またはこの取扱説明書の内容につきましてご質問がおありの場合は、当社営業所へお問い合わせください。

本書において、方向を示す場合、下図矢印方向となります。



もくじ

もくじ

車両型式、車台番号表示位置およびエンジン打刻位置	1
安全に関するご注意	2
運転の資格	3
排出ガスの抑制について	3
法定検査	4

1 基本的注意事項

1.1 一般的な注意事項	5
1.2 安全運転の準備	8
1.3 エンジン始動前の注意事項	8
1.4 エンジン始動後の注意事項	9
1.5 作業（運転）上の注意事項	10
1.6 積込み、積降しするときの注意事項	11
1.7 輸送するときの注意事項	11
1.8 バッテリーの取り扱いに際しての注意事項	12
1.9 整備前の注意事項	13
1.10 整備中の注意事項	15
1.11 安全ラベルの貼付位置	18

2 取 扱

2.1 運転操作装置各部の名称と操作装置の説明	20
2.1.1 運転操作装置各部の名称	20
2.1.2 計器・操作装置	21
2.2 各装置の取り扱い	24
2.3 運転操作方法	26
2.3.1 エンジン始動前の点検	26
2.3.2 エンジンの始動	27
2.3.3 エンジン始動後の確認	28
2.3.4 車両の発進	28
2.3.5 車両の停止／駐車	29
2.4 振動転圧操作	30
2.5 取り扱い上の注意事項	30
2.6 アンロードバルブの操作	31
2.7 散水装置の取り扱い	31
2.8 スクレーパの調節	33
2.9 作業上の注意事項	33
2.9.1 転圧作業時の注意	33
2.9.2 降坂時の注意	33
2.9.3 傾斜地での注意	33
2.10 振動ローラとしての使用目的	34

2.11	作業終了後の注意	34
2.12	積込み、積降し方法	35
2.12.1	移動式クレーンを使用する場合	36
2.12.2	自走の場合	37
2.13	積載時の注意	37
2.14	低温への備え	38
2.14.1	燃料・潤滑油脂	38
2.14.2	バッテリー	38
2.14.3	冷却水	38
2.15	寒冷時が過ぎたら	39
2.16	休車前	39
2.17	休車中	40
2.18	バッテリーが放電したときは	40
2.18.1	ブースタケーブルの接続、取り外し	41
2.19	エンジンシリンダー内部への水侵入によるエンジントラブル防止 (ウォータハンマー対策)	42
2.19.1	水侵入防止対策	42
2.20	上フード／左側面カバーの開閉方法	42
2.20.1	上フードの開け方	43
2.20.2	上フードの閉め方	43
2.20.3	左側面カバーの開け方	43
2.20.4	左側面カバーの閉め方	43
3	点検・整備	
3.1	整備上の注意	44
3.2	始業点検	47
3.3	日常点検	48
3.4	作業手順	50
(1)	10 時間ごと (毎日)	50
(2)	100 時間ごと	52
(3)	200 時間ごと	55
(4)	450 時間ごと	56
(5)	500 時間ごと	56
(6)	必要に応じて行う点検・整備	57
3.5	消耗部品	60
3.6	給水・給油にあたり	62
3.6.1	給水・給油にあたり	62
3.6.2	水・油の容量	62
3.6.3	推奨油脂	62
3.6.4	推奨油脂銘柄表	63
3.7	電気系結線図	64

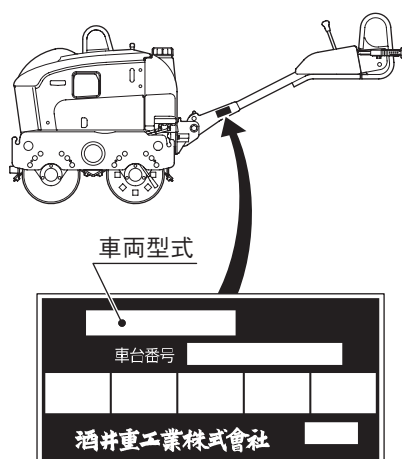
もくじ

4	全体図・諸元	
	(1) HV520	65
	(2) HV620	66

車両型式、車台番号表示位置およびエンジン打刻位置

(1) 車両型式表示位置

銘板に表示してあります。

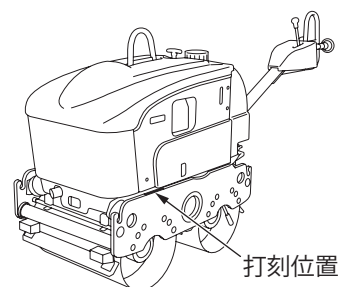


(2) 車台番号表示位置

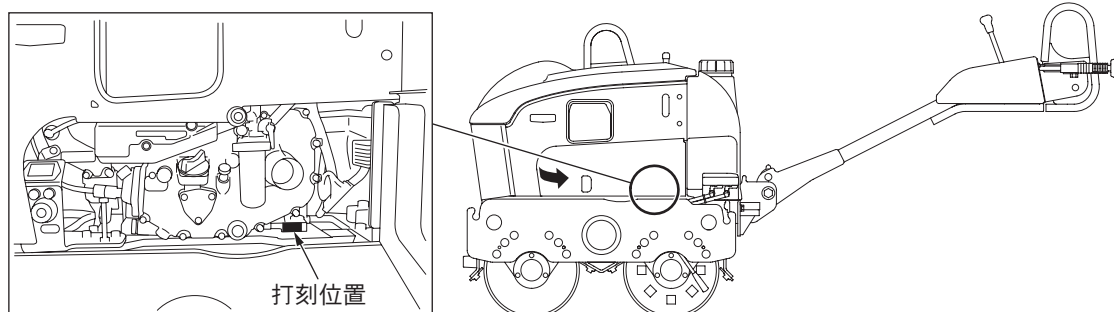
— 車体番号の表示 —

HV520 ➡ 5HV22- ○○○○○

HV620 ➡ 5HV23- ○○○○○



(3) エンジン打刻位置






安全に関するご注意

安全に関するご注意

本機を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な保守が不可欠です。この取扱説明書に示されている安全に関する注意事項をよくお読みになり、十分に理解されるまで運転操作ならびに保守作業を行わないでください。

この取扱説明書に示されている操作および安全に関する注意事項は、ハンドガイド振動ローラとしての使用目的に使用する場合のみに関するものです。この取扱説明書に書かれていない使用法を行う場合の必要な安全に対する配慮は、すべてご自分の責任でお考えください。

この取扱説明書では、もしお守り頂かないと人身事故につながるおそれのある注意事項は、「 危険」または「 警告」という見出しで表示してあります。なおまた、もしお守り頂かないと怪我^{ケガ}の発生または機械の重大な破損につながるおそれのある注意事項は、「 注意」という見出しで表示してあります。特に、もしお守り頂かないと、機械の破損・故障または寿命を短くするおそれのある注意事項を「重要」という見出しで表示してあります。

また、機械を安全に操作、保守整備作業する上での注意事項を、機械に次の見出しをつけてラベル表示してあります。



危険

注意を守らないと重大な怪我^{ケガ}や死亡につながる危険性が極めて高いことを示します。（このマークは赤色で表示）



警告

注意を守らないと重大な怪我^{ケガ}や死亡につながる可能性があることを示します。（このマークはオレンジ色で表示）



注意

注意を守らないと怪我^{ケガ}の発生または機械の破損・故障につながるおそれのあることを示します。（このマークは黄色で表示）

安全に関するご注意／運転の資格／排出ガスの抑制について

この取扱説明書および機体の表示ラベルの記載内容が、すべての危険について予知し、説明しえませんが作業にあたっては、取扱説明書および機体の表示ラベルの記載事項以外についても細心の注意を払って事故が起こらないように留意してください。



警 告

取扱説明書を熟読理解するまで機械を運転してはならない
誤った運転をすると怪我や死亡事故につながるおそれがある
安全に運転することは使用者の責任である

☆本機を改造される場合の注意

当社にリコメンドのない改造は、安全上問題があります。

改造する場合には、事前に最寄りの当社営業所にご相談ください。許可のない改造に起因する人身事故や故障等については責任を負いかねます。

☆本機を取り扱うに際して、安全に係る基本的な注意事項を 5 ページから説明してあります。

運転の資格

本機を運転し、作業する人は、次の資格を有する人でなければなりません。

＝締固め作業＝

ローラ運転者特別教育を受講された方

＝移動式クレーンの使用による積降し作業＝

移動式クレーンの運転…移動式クレーンの運転士または技能講習を修了された方

玉掛け作業…技能講習を修了された方

※ ローラ運転者特別教育、移動式クレーン技能講習、玉掛け作業特別教育については、当社研修センターにて実施しております。

研修センター（埼玉県久喜市）

☎ 0480-52-6964

受講を希望されるかたは、最寄りの当社営業所にご相談ください。

排出ガスの抑制について

小型汎用ガソリンエンジンおよび小型汎用ディーゼルエンジンについて、排出ガス自主規制を実施しています。地球環境保全のために、排出ガスを抑制するように努めてください。

① サカイの推奨する燃料（JIS 燃料）の使用

② 適切な点検・整備の実施

（「3 点検・整備」およびエンジンの取扱説明書を参照してください。）

③ 排出量を抑制する為の運転・使用方法

★急発進、急加速等の急操作および空ふかしの排除

★アイドリング・ストップ ★作業の効率化 ★過負荷作業の禁止

法定検査

法定検査

車両系建設機械は、労働安全衛生規則により、次の検査、記録およびその保存が義務づけられています。

- 1 作業開始前・・・・・・・・労働安全衛生規則第 170 条
ブレーキおよびクラッチの機能の点検
- 2 1 ヶ月以内ごと（自主検査）・・・・・・・・労働安全衛生規則第 168 条
 - 1) ブレーキ、クラッチ、操作装置および作業装置の異常の有無
 - 2) ワイヤロープおよびチェーン等の損傷の有無
 - 3) バケット、ジップ等の損傷の有無
- 3 1 年以内ごと（特定自主検査）・・・・・・・・労働安全衛生規則第 167 条
※〔特定自主検査について〕事業者は、その使用する労働者で厚生労働省令で定める資格を有するものまたは厚生労働大臣もしくは都道府県労働基準局長の登録を受けた検査業者に実施させなければなりません。
- 4 自主検査の記録・・・・・・・・労働安全衛生規則第 169 条
労働安全衛生規則第 168 条および第 167 条の自主検査の結果を記録し、3 年間保存

当該車両には、特定自主検査（法定年次検査）のステッカー（出荷標章）が貼ってあります。

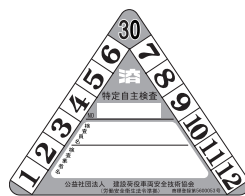
出荷標章

6	労働安全衛生法第45条第2項による	7
5	特定自主検査 を実施しよう	8
4	第1回検査は 年 月です	9
3		10
2	酒井重工業株式会社	11
1	公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会 (労働安全衛生法令第8条)	12

出荷標章は、フォークリフト、不整地運搬車、車両系建設機械及び高所作業車の製造業者または販売業者等が新車をユーザーに納入する際に、その機械の第1回特定自主検査実施期限を相手先に周知するためにはる標章です。

（参考）

検査業者用検査済標章



標章は、検査業者がユーザーまたは機械所有者の依頼によって特定自主検査を実施し、その安全性を確認したとき当該機械にはる標章です。

事業内用検査済標章

6	30	7
5		8
4	特定自主検査	9
3	NO	10
2	検査者	11
1	公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会 (労働安全衛生法令第8条)	12

本標章は、事業内の検査者が自社において使用する機械の特定自主検査を実施し、その安全性を確認したとき当該機械にはる標章です。

1. 基本的注意事項

1 基本的注意事項

1.1 一般的な注意事項

■取扱説明書を熟読する

- 運転操作装置の機能を理解し、その位置、操作方法を熟知してください。
また操作装置や計器すべての認識、記号の意味を正しく理解してください。



■作業現場の規則（ルール）を遵守する

- 作業現場内の禁止・注意事項、作業手順など定められた規則を守ってください。

■作業に適した服装・保護具を着用する

- 作業に適した服装、安全靴、安全帽を着用してください。
- コントロールレバーおよび機械の突起部に引っ掛かる可能性のある服装、装飾品などは着用しないこと。また油の付着した作業着は、引火しやすいので着用しないこと。
- 作業によっては、保護メガネ、マスクなども忘れずに着用してください。



■作業現場の状況を事前に確認する

- 作業現場の地形、地質の状態や走行路面の状況を事前に確認し、車両の転落、路肩の崩壊などのおそれがある所には、誘導員を配置したり、囲いを設けたりして、安全を確保してから作業してください。

■不慮の災害に対する備えをする

- 緊急時の連絡方法や処置の仕方について決めておいてください。また消火器、救急箱の保管場所や使い方を心得ておいてください。

1. 基本的注意事項

■車両の能力を理解する

- 車両の性能を十分に理解し、作業現場の状態に応じた正しい作業方法で行ってください。また車両の能力以上の作業を行うことは、事故に結びつきかねないので、余裕のある作業を心掛けてください。

■未整備車は使用しない

- 作業前に、よく点検整備をし、故障のないことを確かめてから運転してください。もし、異常を発見した場合、直ちに責任者に報告して適切な処置をし、安全を確認してから運転をしてください。

■作業現場は関係者以外立入禁止とする

- 作業現場内へは関係者以外の立入りを禁止する措置を講じてください。またいかなる場合も周囲にいる人のことを忘れないで作業してください。



■高温時の取り扱いに注意する

- 車両が稼働すると、エンジン冷却水、エンジンオイル、作動油が高温になり、圧力が蓄積され、この状態でキャップを外したり、排油、排水、フィルタの交換をすることは、ヤケドの原因となるため、温度が下がるのを待って正規の手順に従い実施してください。
- ラジエータキャップを外すときは、エンジンを停止し、水温が下がってからキャップをゆっくり回し、内圧を逃がしてから外してください。
[ラジエータキャップにレバーがついているものにあつては、レバーを起して内圧を逃がしてください]
- 作動油タンクのキャップを外すときは、オイルが吹き出すことがあるので、キャップをゆっくり回し、内圧を逃がしてから外してください。
- エンジン稼働中、稼働直後は、マフラーは高温になっていますので、マフラーには触らないでください。



1. 基本的注意事項

■火気に注意する

- 燃料、オイル、不凍液などに火気を近づけると、引火のおそれがあります。
特に、燃料は非常に燃えやすく危険です。
- タバコやマッチなどの火気を可燃物に近づけないでください。
- 燃料補給は、エンジンを止めてから行ってください。
- 燃料やオイルのキャップは、全てしっかり締めてください。



■油圧作動油の取り扱いに注意する

- 目に入ると炎症を起こすことがあります。取扱う際は保護眼鏡を使用するなどして、目に入らないようにしてください。
目に入った場合は、清浄な水で 15 分間洗浄し、直ちに医師の診断を受けてください。
- 皮ふに触れると炎症を起こすことがあります。
取扱う際は、保護手袋を使用するなどして皮ふに触れないようにしてください。
皮ふに触れた場合には、水と石けんで十分に洗ってください。
- 飲まないでください（飲みこむと下痢、嘔吐します）。
飲みこんだ場合は、無理に吐かせずに直ちに医師の診断を受けてください。



1. 基本的注意事項

1.2 安全運転の準備

■車体を清掃する

- 車体には部品、工具、不要な物品を置かないでください。
- ハンドルに泥、油、雪、水があるとすべりやすいのでよく拭き、常にきれいにしておいてください。

■作業前に車両を点検する

- 車体にクラックや曲がりまたは、歪みのような物的損傷の形跡がないか入念に点検してください。異常がみられた場合は、安全を確認してから運転してください。
- 全ての液体のレベルを確認し、必要に応じて補給してください。
〔燃料、エンジンオイル、作動油、散水用水〕
- 車両を止めていおいた地面に、油、燃料、水などが漏れた形跡がないか調べてください。漏れた形跡があれば環境汚染のおこらない様処理した後、原因を調査し、修理してください。

1.3 エンジン始動前の注意事項

■フードとドアが閉まっていることを確認する

- 始動前にフードとドアが確実に閉まっていることを確認してください。

■ホーン、灯火、電装機器の作動を確認する

- ホーン、灯火、電装機器の作動が正常であることを確認してください。

■始動前に、各操作レバーの「中立」を確認する

- 各操作レバーが「中立」の位置であること、駐車ロックが作動（駐車ロックレバーが「ロック」の状態）であることを確認してください。

■始動するときは、ホーンを鳴らして周囲の安全を確認する

- エンジンを始動する前に、もう一度周囲に人がいないこと、障害物がないことを確認してください。



1. 基本的注意事項

■換気に注意する

- エンジンの排気ガスは危険です。
屋内など換気の悪い所でエンジンを始動する場合には、窓や入口を開け、十分な換気をしてください。



■エンジン稼動中、排気ガスの排出口付近に注意する

- エンジン排気ガスは危険です。
排気ガスの排出口付近には、立たないでください。

1.4 エンジン始動後の注意事項

■周囲の安全を確認する

- 車両の周囲に人がいないこと、障害物がないことを確認し、特に見えない所に注意してください。さらにホーンを鳴らして合図を出し、一息ついてから発進してください。



■機械のウォーミングアップをする

- エンジン始動後、すぐに車の運転に移らずに、暖機運転をしてください。
- 車両の下に、油、燃料、水などが漏れた形跡がないか調べてください。漏れた形跡があれば環境汚染のおこらない様処理した後、原因を調査し、修理してください。

■作業（運転前）に試走を行う

- 安全な場所で試走させ、走行具合（速度、前後進ステアリング）、各部の作動が正常であることを確認してください。異常が認められた場合には、必ず適切な処置をしてから運転を開始してください。
- 車の音、不自然な振動、熱、臭いを調査し、異常を発見したらすぐに安全な所に止め、原因を調べ修理してください。

1. 基本的注意事項

1.5 作業（運転）上の注意事項

■わき見運転はしない

- わき見運転や見込み運転は重大事故のもとです。通行方向や周囲の作業者に十分注意し、危険な場合はホーンを鳴らして知らせてください。

■切り換え方向の安全確認をする

- 前後進の切り換えをするときは、切り換え方向の安全を確認してください。
特に、後進するときは、後進方向の障害物に注意してください。

■夜間の運転はとくに慎重に行う

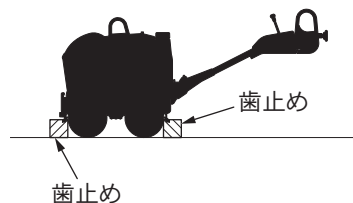
- 夜間は、物の遠近を見誤りやすくなるので、照明にあった速度で慎重に走行してください。
また車両の前照灯を点灯し、さらに必要に応じ照明施設を設けるなどして明るくしてください。
- 進行方向の障害物や人に十分注意してください。

■異常箇所はすぐに修理する

- 作業中に、装置、あるいは車両に異常を発見したら、直ちに車両を停止させ、修理してください。
修理が終わるまで運転しないでください。

■駐車するときの注意

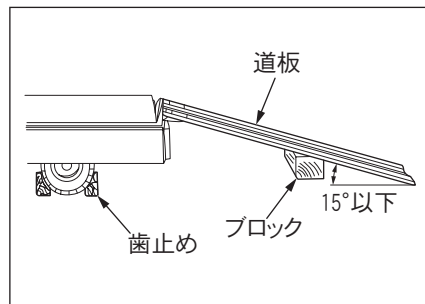
- 駐車する場合は、水平な路面を選んでください。必ず駐車ロック、前後の車輪に歯止めをしてください。傾斜地では駐・停車をしないでください。
- 路上駐車するときは、他車がはっきり確認できるように進行をさまたげない範囲で、旗、柵、照明その他注意標識をしてください。
- 車から離れるときは前後進レバーを「中立」、駐車ロック（駐車ロックレバー）を「ロック」の状態にしてからエンジンを停止してください。
- キーは必ず持ち帰ってください。



1. 基本的注意事項

1.6 積込み、積降しするときの注意事項

- 積込み、積降し作業は、特に危険をともないますので注意してください。
- 車両の積込み作業は、平坦で路盤の固いところをえらんでください。また路肩との距離を十分にとってください。
- 道板は十分に強度があるものを使用してください。また安全に積込み、積降しができるような幅、長さ、厚さがあるか確認し、道板のたわみ量が多いときはブロックなどで補強してください。
- 車両が横滑りしないように道板の表面に油脂や異物等の付着物があれば除去してください。また車両に付着した泥あるいはアスファルトも落としてください。
- 道板上では絶対に進路を修正しないでください。進路修正をする場合は、いったん道板から降りて方向を直してください。
- クレーンやウインチに使用するワイヤロープはキンクやネジレがあったり損傷しているものは、使用しないでください。また本機の重量に対して、十分強度のあるものを使用してください。
- 本機を吊り上げる場合は、垂直に吊り上げてください。
フックに左右・前後方向の吊り上げ荷重がかかるとフックの曲がりや損傷につながり危険です。
- 積込み後、本機が動かないように角材をかませワイヤロープ等で確実に固定してください。
- 積込み、積降し時のステアリング操作は非常に危険ですのでおやめください。



1.7 輸送するときの注意事項

- 輸送するときは、関係法令に従って安全に行ってください。

1. 基本的注意事項

1.8 バッテリーの取り扱いに際しての注意事項

■バッテリーの取り扱いの注意事項

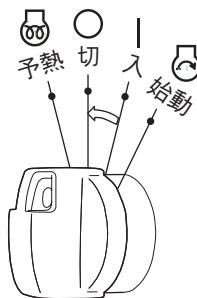
- バッテリーは、水素ガスを発生するので、爆発のおそれがあります。
タバコなどの火気に近づけたり、スパークを起こすような行為はやめてください。



- バッテリー液は希硫酸が含まれているので、衣類や皮ふを冒します。もしバッテリー液が衣服や皮ふに付着したら至急多量の清水で洗い落としてください。
- 誤って液を飲み込んでしまったときは、多量の水かミルクあるいは、生卵か植物油を飲み、すぐに医師の治療を受けてください。
- 目に入ったときは、直ちに清水で洗い、すぐに医師の治療を受けてください。
- バッテリーを扱う場合は、必ず保護メガネを着用してください。



- バッテリーの点検・取り扱いはエンジン停止、始動スイッチキーを“切”の状態で行ってください。
- バッテリーの両極間に工具などの金属物を誤って接触させないように注意してください。
- 端子が緩んでいると、接触不良によりスパークが発生し爆発の危険があるので、端子を取り付けるときは、しっかり取り付けてください。
- バッテリーは、当機のエンジン始動用です。他の用途に使用しないでください。
- バッテリーは液面が LOWER (最低液面線) 以下になったままでの使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりではなく、爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

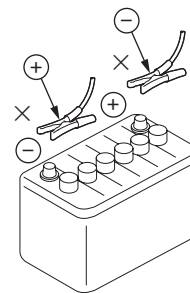


【**⚠ 警告** — これらの注意事項を守らないと事故に結びつきます】

1. 基本的注意事項

■ブースタケーブルを使用時の始動は手順を守る

- ブースタケーブルを使って始動するときは保護メガネを着用してください。また換気が十分に行える場所で行ってください。
- 他の車を使って始動するときは、正常車と異常車が接触しないようにしてください。
- 取り付けは、⊕端子から行い、逆に、取り外しはアース側（通常は⊖端子側）から行ってください。
- ⊕端子と車体の間に工具が触れるとスパークを起し危険ですので気をつけてください。
- ブースタケーブルの接続を間違えないでください。⊕と⊖端子を絶対に接続しないでください。
- 最後の接続は、異常車のエンジンプロックに接続しますが、このときスパークが発生するので、バッテリーからできるだけ離れている場所に接続してください。



1.9 整備前の注意事項

■点検・整備中は警告札を表示する

- 本機の点検・整備中に当事者以外の人が不用意にエンジンをかけたり、レバーにふれたりすると重大な人身事故に結びつきます。
- コントロールハンドルの見易い位置に警告札を表示してください。必要な場合、さらに車の周囲にも表示してください。



1. 基本的注意事項

■適切な工具を使用する

- 破損または劣化した工具を使用すること、あるいは本来の使用目的以外で工具を使用することは、非常に危険です。整備作業にあった工具を使用してください。



■安全重要部品は定期交換をする

- 次の火災に関係ある部品は定期交換してください。

燃料系：燃料ホース

作動油系：高圧ホース

☆この部品は異常がなくても新品と定期交換してください。時間により劣化します。

☆異常がある場合には、定期交換時間内でも交換してください。

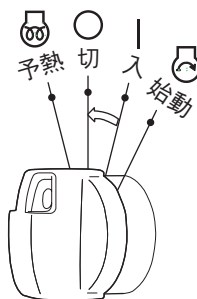
■前後進レバーを中立にして、駐車ロックと歯止めをする

■エンジンを停止してから点検・整備作業をする

- 点検・整備作業をする場合は、必ずエンジンを停止してから行ってください。

ラジエータ内部洗浄などエンジンをかけて整備する必要があるときは、必ず二人で行ってください。

一人はいつでもエンジンを停止できるようにしてください。また必要以外のレバーには触れないように十分注意してください。整備に従事される方は、動いている部分に身体や服が触れないように注意してください。



■燃料・オイル・グリース補給中の遵守事項

- こぼれた燃料・オイル・グリースは、すべて危険です。直ちに拭き取ってください。燃料・オイル・グリースのキャップは、しっかり締めてください。燃料を決して洗浄に使用しないでください。換気の良い場所で燃料・オイル補給作業を行ってください。
- 電気系統に水が侵入すると動作不良を起こし、誤作動の原因となることがあり危険です。コントロールカバーの水洗や蒸気洗浄をしないでください。

1. 基本的注意事項

■ラジエータの水位を確認する

- 水位レベルをチェックする場合は、エンジンを止めてエンジンやラジエータが冷えてから行ってください。

■照明の取り扱い

- 燃料・オイル・冷却水・バッテリー液などを点検する場合は、防爆仕様の照明器具を使用してください。防爆仕様の照明器具を使用しないと引火し爆発の危険があります。



1.10 整備中の注意事項

■関係者以外の立ち入りを禁止する

- 整備中は、必要な作業員以外近づいてはいけません。周囲の人に気をつけてください。研磨や溶接作業、大ハンマー使用時は特に注意してください。



■車両はいつもきれいにする

- こぼれたオイル、グリースまたは散乱した破片は危険です。車両はいつもきれいに管理してください。
- 電気系統に水が浸入すると動作不良を起こし、誤作動の原因となることがあり危険です。コントロールカバーの水洗や蒸気洗浄はしないでください。

■バッテリーの取り扱いに注意する

- 電気系統を修理する場合や電気溶接を行う場合は、バッテリーの⊖端子を外して電気の流れを止めてください。



1. 基本的注意事項

■高圧ホースの取り扱いに注意する

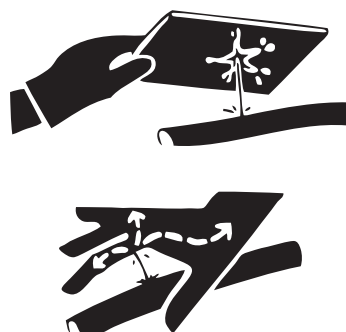
- 高圧ホースを曲げたり、固いものを打ちつけないでください。曲がりや破れのある配管やチューブ、ホース類は、破裂することがありますので使用しないでください。
- 破損のある燃料ホース、油圧ホース類は、必ず新品と交換してください。オイルや燃料がもれると火災の原因となります。

■高圧油に注意する

- 作業機回路には、常に内圧があることを知っておいてください。内圧がゼロになる前に給油・排油または点検・整備作業は行わないでください。

小さい穴からの高圧油の漏れは皮ふや目に当たると危険です。安全メガネや厚い手袋を着用して、厚紙や合板を漏れの点検箇所当てて点検してください。

高圧油に触れた場合はすぐに医師の治療を受けてください。



■高温、高圧時の整備には注意する

- 稼働停止直後は、エンジン冷却水や各部オイルが高温、高圧になっています。

この状態でキャップを外したり・排油、排水、フィルタ交換の整備を行うと、ヤケドの原因となります。温度が下がるのを待ち、本書に記載されている手順に従って、点検整備を実施してください。



■回転中のファンおよびベルトの点検・整備には注意する

- 回転箇所の周りには、巻き込まれやすい物を近づけないでください。
- ファンブレードやファンベルトなどに、身体や工具を触れさせると、切断されたりしますので絶対に接触させないでください。

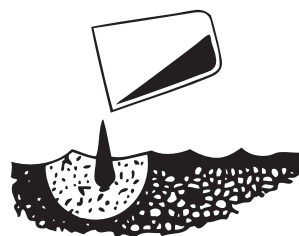


【**⚠ 警告** — これらの注意事項を守らないと事故に結びつきます】

1. 基本的注意事項

■廃油の取り扱いに注意する

- 下水道、川等に廃油を捨てないでください。必ず機械からのオイルは容器に排出してください。決して地面に直接排出してはいけません。
- オイル、燃料、冷却水、溶剤、フィルタ、バッテリー等の有機溶剤を処分するときは適用される法規、規則に従ってください。



1. 基本的注意事項

1.11 安全ラベルの貼付位置

これらの銘板は、いつもきれいにしておいてください。紛失した場合は、再度貼付するか、新品と交換してください。

下記に示す銘板以外にも銘板がありますので同様に取り扱いってください。

① 1355-19017-0

⚠ 警 告
<p>1. 使用上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 取扱説明書を熟読理解するまで機械を運転してはいけません。 誤った運転をするとケガや死亡事故につながる恐れがあります。 安全に運転することは使用者の責任です。 機械は常に清潔にしてください。レバー、ハンドルなどに泥、雪、油などが付着していると滑り易くなるので、よく拭き取ってください。 作業現場では安全規則を守り、準備された安全装置は必ず使用して下さい。 安全性に影響を及ぼす改造はしないで下さい。酒井重工業㈱の同意無き改造に起因する事故や故障については、責任を負いかねます。 修理や調整が必要な場合は、機械を動かさないでください。 トラック等への積み降しはハンドルを折り畳み、吊り上げフックにより吊り上げるか、自走で行って下さい(登坂角度15°以下)。 輸送時は、駐車ロック、歯止め、エンジンを停止させ、車両をロープで確実に固定して下さい。 牽引時は、油圧ポンプ下側にあるアンロードバルブ(赤色)を一回転開いて下さい。 牽引終了後はアンロードバルブを確実に締付けて下さい。(締付けトルク: 5.4~6.8 N・m) アンロードバルブを開けると機械が動き出す恐れがありますので十分注意して下さい。 フードを開けた状態でエンジンの始動及び、運転を行わないで下さい。 <p>2. 始動</p> <ul style="list-style-type: none"> 油類、本機部品の破損、ネジ類の緩み等の運行前点検を行って下さい。 前後進レバーを「中立」、振動スイッチを「OFF」にして下さい。 スロットルレバーを一杯まで押し下げて下さい。 冷間時には約10秒間予熱後エンジンを始動させて下さい。 始動スイッチを「始動」の位置まで廻して下さい。始動を確認したら速やかに始動スイッチから手を離して下さい。 始動後、ブザー音が消えない場合は速やかにエンジンを停止させエンジンオイルの点検を行って下さい。 始動後はエンジン回転を低速にして約5分間暖気運転を行って下さい。 <p>3. 運転</p> <ul style="list-style-type: none"> エンジン運転中は必ずエンジンを最高回転にして下さい。傾斜面でエンジン回転が低い場合やエンストを起こすと、自重により車両が落下します。車両が落下し始めた場合は、前後進レバーを中立に戻して下さい。 駐車ロックレバーを「(R)」の位置にして下さい。 前後進レバーを「F」、「R」側に傾けると前進、後進します。 振動スイッチを「ON」にすると起振します。 <p>4. 停止</p> <ul style="list-style-type: none"> 前後進レバーを中立にして、エンジン回転を低速にして下さい。 スロットルレバーを一杯に戻すとエンジンは停止します。エンジン停止後、始動スイッチを「切」にして下さい。 <p>5. 駐車時の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> エンジン停止は、水平な場所で前後進レバーを「中立」にし、駐車ロックレバーを「(P)」位置で動作させ、歯止めを掛けた後、エンジンを停止させて下さい。 作業終了後は低速エンジン回転にて、5分以上の冷機運転後にエンジンを停止して下さい。 車両から離れる時は、駐車ロック、歯止めを掛けた後、エンジンを停止させ、エンジンキーを外して下さい。 エンジン停止後は、エンジンキーを車両につけたままにせず、必ず持ち帰して下さい。

② 3998-16478-0

⚠ 警 告
<p>エンジンフード開放運転注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 運転中はフードを開けないで下さい。 高温部に接触すると火傷のおそれがあり、回転部でケガをするおそれがあります。

③ 1472-19014-1

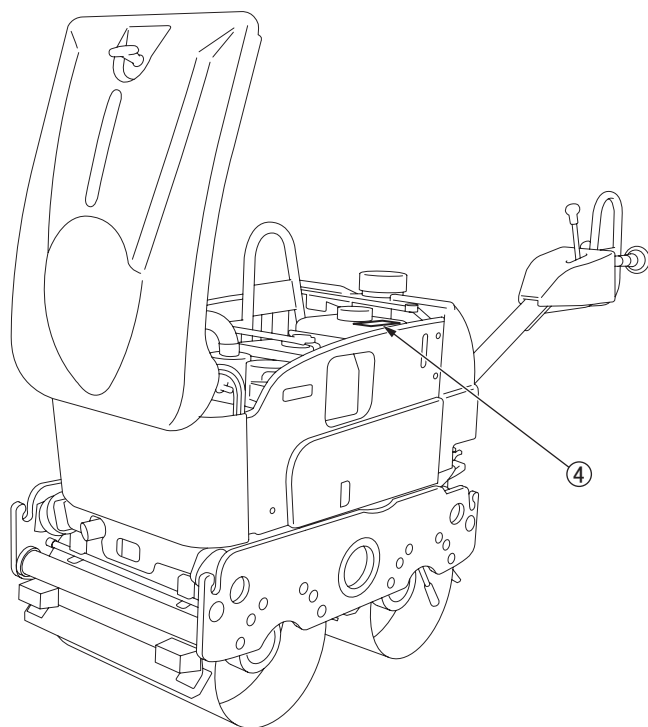
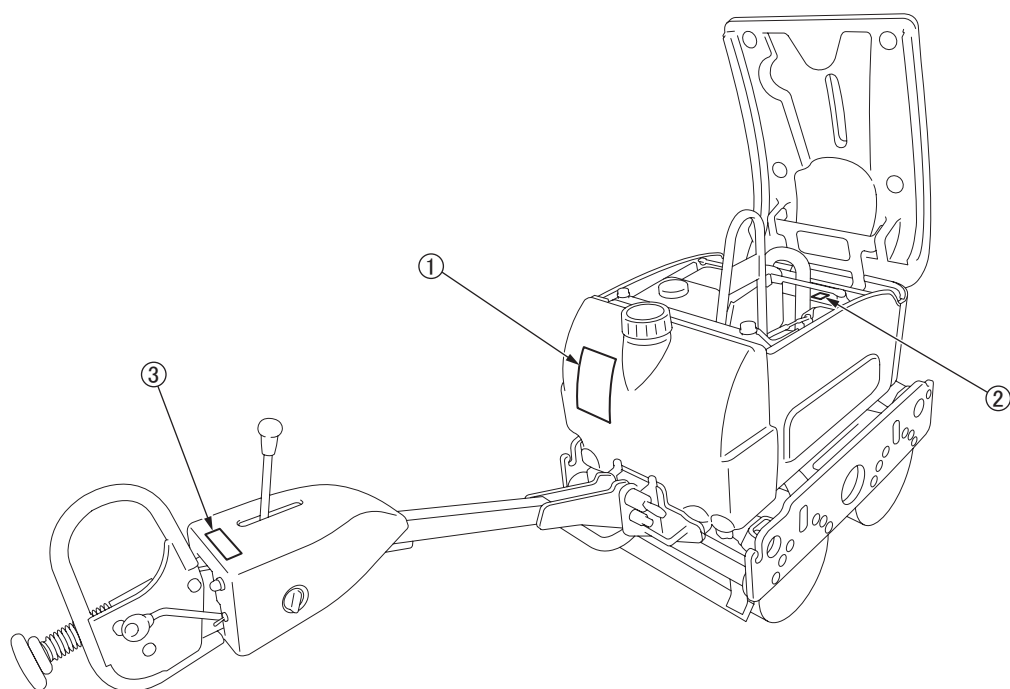
⚠ 警 告
<p>前後進レバー操作中は、エンジンを停止しないこと。</p>

④ 2998-96001-0

⚠ 注 意
<p>指定燃料以外の給油禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定燃料以外の使用は性能の著しい低下や故障の原因となります。 詳細は取扱説明書を参照してください。

【⚠ 警告 — これらの注意事項を守らないと事故に結びつきます】

1. 基本的注意事項

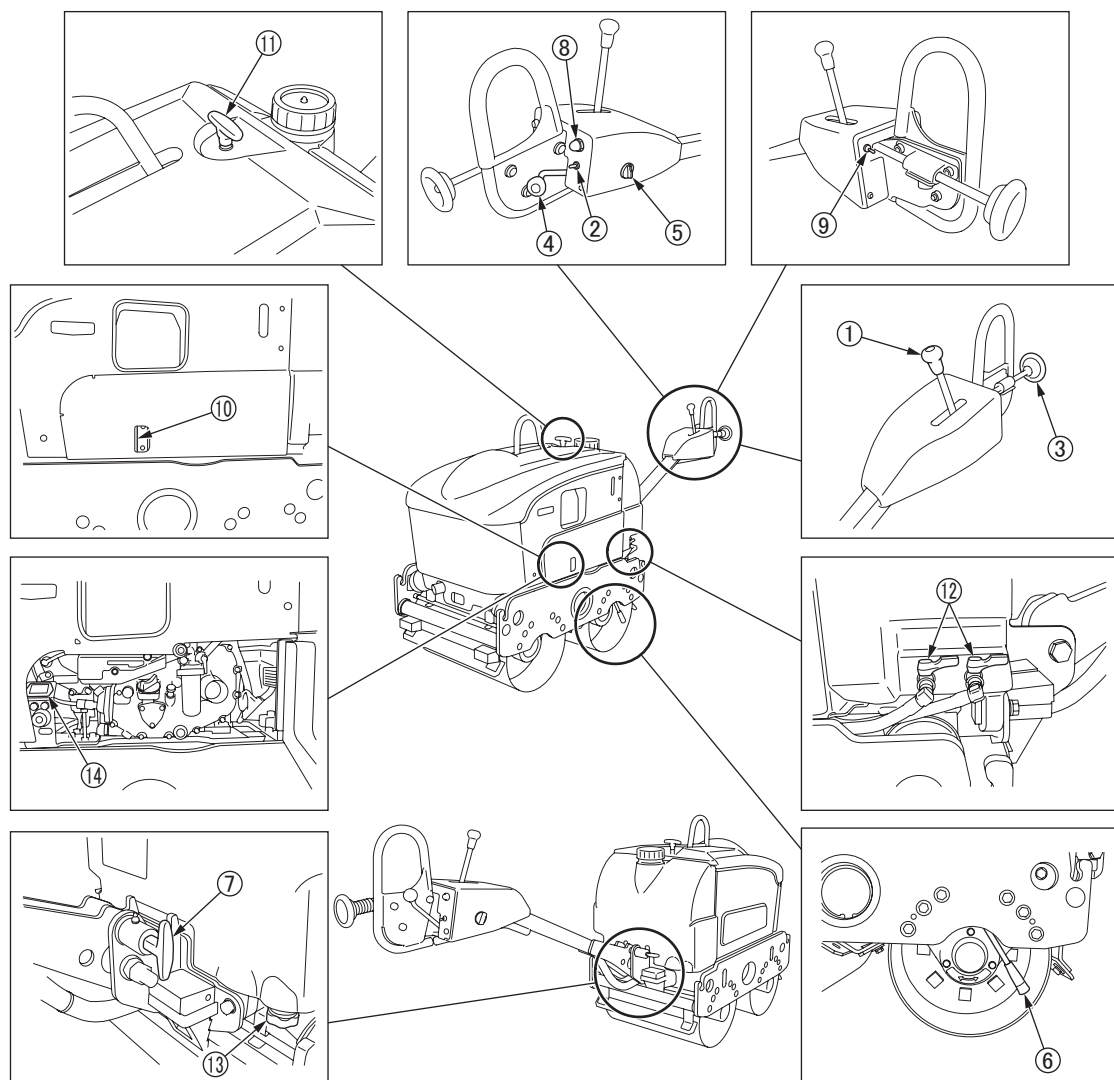


2. 取 扱

2 取 扱

2.1 運転操作装置各部の名称と操作装置の説明

2.1.1 運転操作装置各部の名称



- ①前後進レバー
- ②ライトスイッチ
- ③安全装置ノブ
- ④スロットルレバー
- ⑤始動スイッチ

- ⑥駐車ロックレバー
- ⑦コントロールハンドルロックピン
- ⑧ホーンスイッチ
- ⑨振動スイッチ
- ⑩左側面カバー開閉ノブ

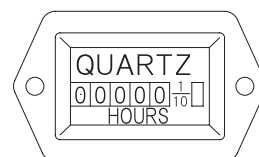
- ⑪上フード開閉T型ノブ
- ⑫散水コック
- ⑬散水ドレン
- ⑭積算計

2.1.2 計器・操作装置

運転操作に必要な装置の役割と働きについて十分理解し、安全な作業を行ってください。

積算計

積算計は、機械の稼働時間を表し、点検・給油・整備などを行うときは、この積算計の読みが基準時間となります。

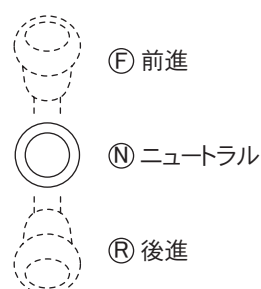


前後進レバー

発進（前・後進）・停止・無段変速の3つの機能をもっています。

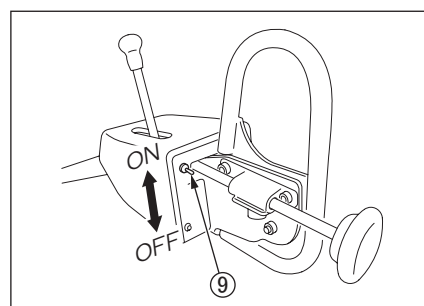
レバーを前後に倒すと、各々前後進し、“N（ニュートラル）”で停止します。

〔補足〕：車速はレバーの倒れに比例します。



振動スイッチ

- 1) スイッチ⑨を上側に倒すと振動が入ります。
- 2) スイッチ⑨を下側に倒すと振動が切れます。



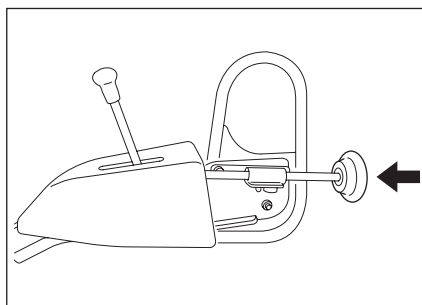
〔重 要〕

- ・ コンクリート、鉄板等の固いところでの振動はしないでください。
- ・ 車両が停止しているときは、振動を停止してください。
- ・ 車両転圧中、ぬかるみなどにより走行不能となったときは、直ちに振動を停止してください。

2. 取 扱

安全装置ノブ

安全装置ノブは、押されると作動し、車体を停止させます。



ヒューズ

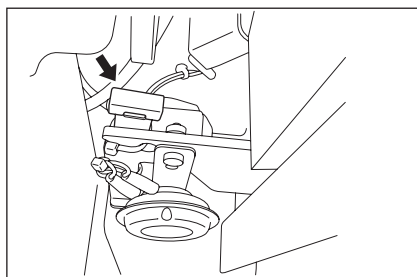
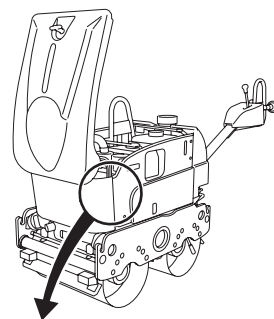
⚠ 警 告

ヒューズを交換するときは、必ず電源を切って（始動スイッチを“切”にして）から行ってください。

電装品、配線を焼損から保護します。

ヒューズから腐食して、白い粉がふいていたり、ヒューズホルダーとヒューズの間に緩みがあったら新品に交換してください。

ヒューズ交換時は、同容量のものと交換してください。



始動スイッチ

エンジンの始動・停止を行います。

“予熱”の位置：寒冷時に始動するとき、この位置にしてください。

キーを約 10 秒間“予熱”の位置にしてください。

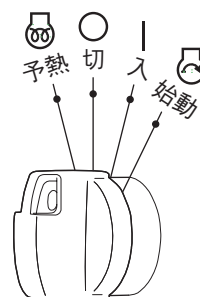
手を離すと“切”にもどりますので、“始動”の位置にしてください。

“切”の位置：キーの出し入れができ、すべての電気系統のスイッチが切れます。

エンジンを停止するときは、この位置にしてください。

“入”の位置：充電回路と灯火回路に電気が流れます。エンジン始動後は、この位置にしておいてください。

“始動”の位置：エンジンの始動の位置です。始動したらスイッチから手を離してください。自動的に“入”の位置まで戻ります。

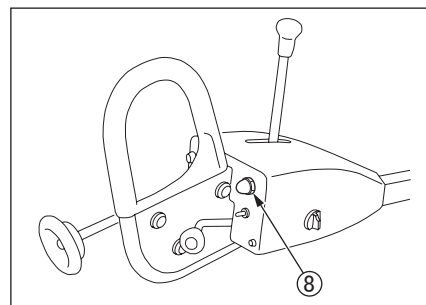


ホーンスイッチ

スイッチ⑧を押すとホーンが鳴ります。

【重 要】

始動スイッチが“入”の位置の状態でホーンが鳴ります。



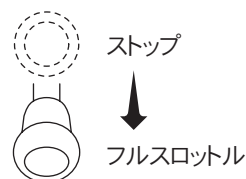
スロットルレバー

エンジンの回転数を変更する時に使用します。

手前に倒すとエンジン回転数が高くなります。

【重 要】

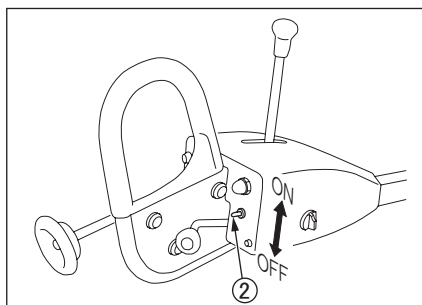
作業中は、必ずエンジンを最高回転数にしてください。



2. 取 扱

ライトスイッチ

- 1) スイッチ②を上側に倒すと点灯します。
- 2) スイッチ②を下側に倒すと消灯します。



⚠ 警 告

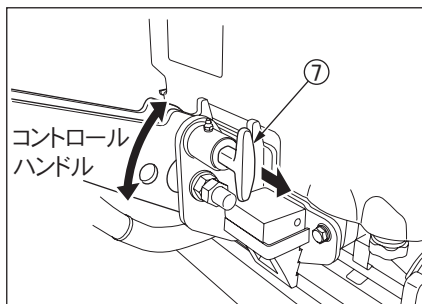
- ・ 始動スイッチが“入”の位置の状態ではライトが点灯します。
- ・ エンジンが低速回転時はライトを点灯しないでください。

2.2 各装置の取り扱い

コントロールハンドル

コントロールハンドルは、運搬時等折りたたむことができます。

- 1) コントロールハンドルを折りたたむとき
ロックピン⑦を手前に引き、ロックを解除し、コントロールハンドルを持ち上げます。
折りたたみ位置にいくとロックピン⑦が自動的にもどり、ロックされます。
- 2) コントロールハンドルを運転位置に戻すとき
ロックピン⑦を手前に引き、ロックを解除し、コントロールハンドルを後方へ押し下げます。
コントロールハンドルが運転位置にいくとロックピン⑦が自動的にもどりロックされます。



[補足] : コントロールハンドルを折りたたんだ状態での車両最後端は、コントロールハンドル背面側となりますので、車両を積載またはヤード等に収納時は、接触しない様確認してください。

⚠ 注 意

コントロールハンドルを折りたたんだ後や、運転位置に戻したときは、ロックピン⑦のロックを必ず確認してください。

〔重 要〕

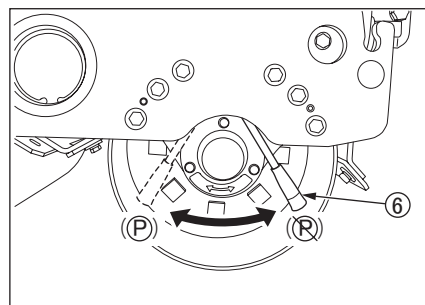
コントロールカバーの裏側は高圧洗浄をしないでください。装置故障の原因となります。

駐車ロックレバー

駐車するときは、駐車ロックレバー⑥を“(P)”の位置にすると、駐車ロックの状態になります。

走行するときは、駐車ロックレバー⑥を“(R)”にしてください。

〔補足〕：レバーが動きにくい時は、機体を少し前進あるいは後進させてください。



⚠ 警 告

- 駐車時には、必ず駐車ロックレバー⑥を“(P)”の位置にしてください。
- 走行中に駐車ロックレバー⑥を“(P)”にしないでください。
(サービスブレーキに使用しないでください)

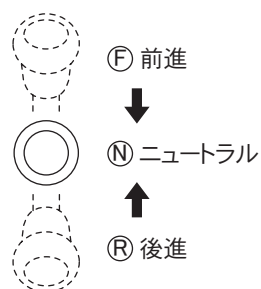
2. 取 扱

2.3 運転操作方法

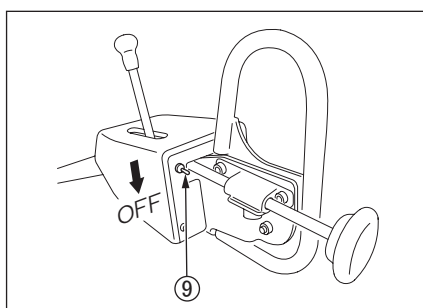
2.3.1 エンジン始動前の点検

前後進レバーが“N（ニュートラル）”の位置に、振動スイッチ⑨が“OFF”の位置に、駐車ロックレバー⑥が“（P）”の位置にあることを確認してください。

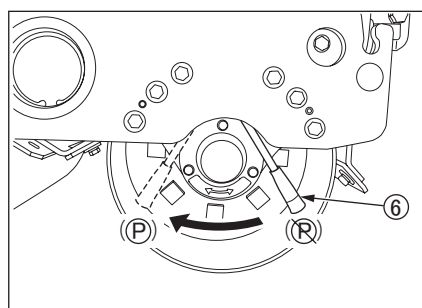
〔前後進レバー〕



〔振動スイッチ〕



〔駐車ロックレバー〕



⚠ 警 告

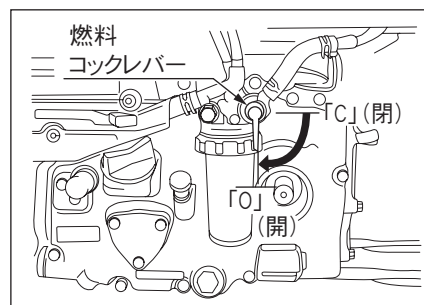
- 周囲に障害物がないか確認し、始動してください。
- 前後進レバーを“N（ニュートラル）”の位置にしてから始動してください。

2.3.2 エンジンの始動

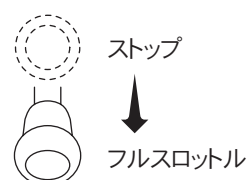
- 1) 燃料コックを“O（開）”の位置にします。

— [重 要] —

燃料コックを“O（開）”の位置にすると、自動エア抜装置が働き、パイプやフィルタ内のエアが抜けますので 20 秒間待ってから始動操作を行ってください。



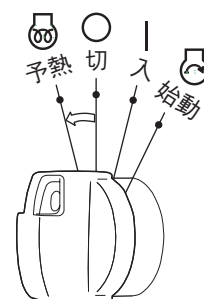
- 2) スロットルレバーを一杯まで押し下げます。



- 3) 始動スイッチを“入”の位置にして油圧警報ブザーが鳴ることを確認します。

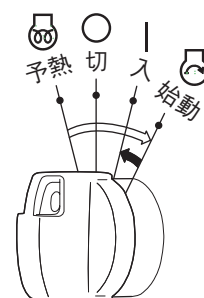
ブザーが鳴らないときは、異常箇所を調べて修理してください。

- 4) エンジンが冷えているときは、始動スイッチを“予熱”の位置にして約 10 秒間予熱してください。



- 5) 始動スイッチを“始動”の位置に回すとエンジンは始動します。

始動と同時に手をはなすとスイッチは自動的に“入”の位置にもどります。



2. 取 扱

2.3.3 エンジン始動後の確認

始動後はすぐに車の運転をせずに、次の事項を守ってください。

- 1) 数分間暖気運転を行ってください。
- 2) 排気の色は正常か、異音・異臭はないか確認してください。
- 3) 運転中あるいは運転直後にはラジエータの水は高温になっております。このような時、キャップをはずすと危険ですので、エンジンを停止させ、さめるのを待ってから注意してはずしてください。

⚠ 注 意

- ・ エンジン始動後、始動スイッチは“始動”にしないでください。
- ・ エンジン始動後も油圧警報ブザーが鳴る場合は、速やかにエンジンを停止させ、エンジンオイルのレベルをチェックしてください。
- ・ スタータモータは 15 秒間以上続けて回さないでください。
- ・ 始動に失敗したときは、30 秒以上間をおいてから再始動してください。

2.3.4 車両の発進

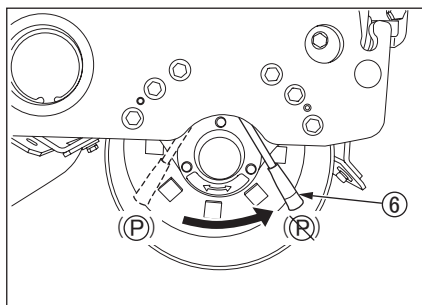
⚠ 警 告

発進する前に、車両の周囲に誰もいないこと、障害物がないことを確認してください。
特に、後進する場合、後方の障害物に十分注意してください。

⚠ 注 意

運転中、始動スイッチは“切”にしないでください。

- 1) 駐車ロックレバー⑥を“(R)”の位置にしてください。

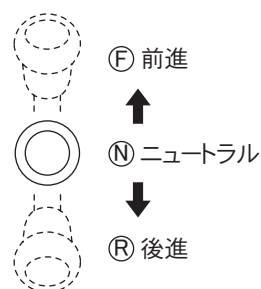


- 2) 前後進レバーを前または後に倒せば、前進または後進します。

⚠ 注 意

レバーはゆっくり操作してください。

[補足]: 走行速度は前後進レバーで操作できます。



2.3.5 車両の停止／駐車

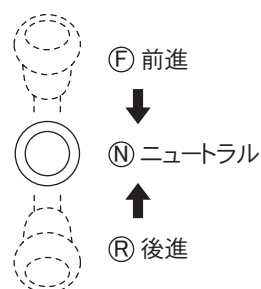
⚠ 警 告

- ・ 急停止を避け、できるだけ余裕をもって停止させてください。
- ・ 傾斜面での駐車は、避けてください。
- ・ 車両を離れるときは、必ずエンジンを停止し、駐車ロックレバーを“(P)”の位置にして、歯止めをかけてください。また、キーは必ず持ち帰ってください。

- 1) 前後進レバーを“N (ニュートラル)”の位置にすると、車は停止します。

⚠ 注 意

通常の停止は、前後進レバーの操作で行ってください。



- 2) 駐車ロックレバーを“(P)”の位置にします。
- 3) エンジンの回転数を低速にして、2～3分間無負荷運転します。
- 4) スロットルレバーを一杯に戻すと、エンジンは停止します。
- 5) 燃料コックを“C (閉)”の位置にします。
- 6) 始動スイッチを“切”の位置にします。

⚠ 警 告

坂道でエンジンが停止した場合は必ず前後進レバーを“N (ニュートラル)”の位置に戻してください。そして、駐車ロックレバーを“(P)”の位置にして、歯止めをかけてください。自重による機械落下の事故を防止します。

2. 取 扱

⚠ 注 意

運転中およびエンジンが完全に停止する前に、始動スイッチを“切”にしないでください。

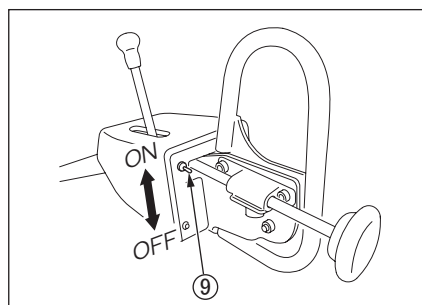
2.4 振動転圧操作

- 1) 振動スイッチ⑨を上側に倒すと振動が入ります。
- 2) 振動スイッチ⑨を下側に倒すと振動が切れます。

⚠ 警 告

坂道での振動転圧作業時にエンジンが停止した場合は必ず前後進レバーを“N（ニュートラル）”の位置に戻してください。

自重による機械落下の事故を防止します。



〔重 要〕

- 車両が停止しているときは、振動を停止してください。
- 車両転圧中、ぬかるみなどにより走行不能となったときは、直ちに振動を停止してください。

2.5 取り扱い上の注意事項

- 1) 走行中は、コントロールハンドルロックピンを完全にロックしてください。
- 2) 本機を吊り上げる時は、ハンドルがロックピンで固定されていることを確認してください。

2.6 アンロードバルブの操作

エンジン停止状態でケン引をする時は、アンロードバルブを下記の要領で操作してください。（アンロードバルブは油圧ポンプの下面にあります。）（17mm 幅スパナ使用）

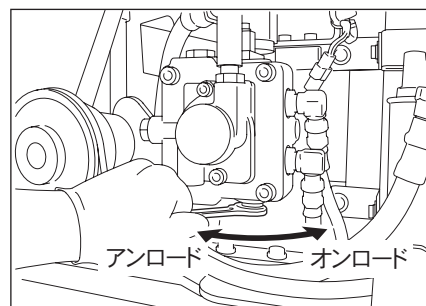
ケン引される場合（アンロード）

アンロードバルブを時計回転方向に一回転開いてください。

通常走行の場合（オンロード）

アンロードバルブを反時計回転方向に確実に締めてください。

（締付けトルク：5.4 ～ 6.8N・m）



⚠ 警 告

坂道でのアンロードバルブの操作およびケン引には十分注意してください。

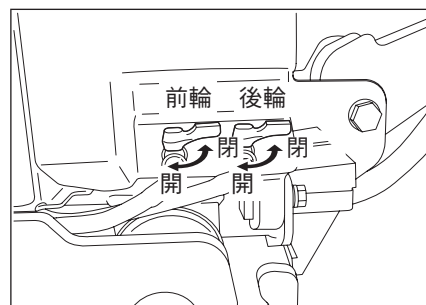
2.7 散水装置の取り扱い

〔重 要〕

- ・ 散水する前に、散水タンクの水の量を確認します。不足しているときは給水してください。
- ・ 散水用の水には必ず清水を使用してください。

⚠ 注 意

寒冷時には、凍結防止のため作業終了後、散水タンクおよびホースの水を完全に抜いてください。

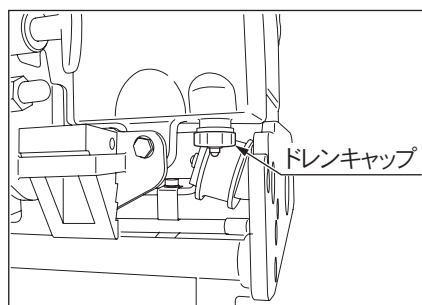


散水コックを“開”の位置へ回すと、散水ができます。

2. 取 扱

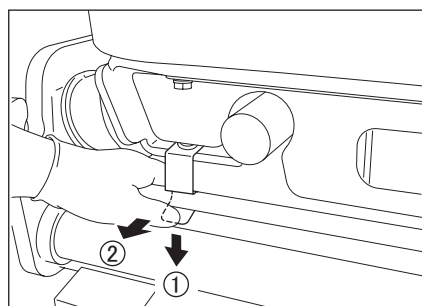
水抜き方法

- 1) タンクドレンキャップを外し、タンク内の水を排出します。
- 2) コックを“開”に回し、ホース内の水を排出します。



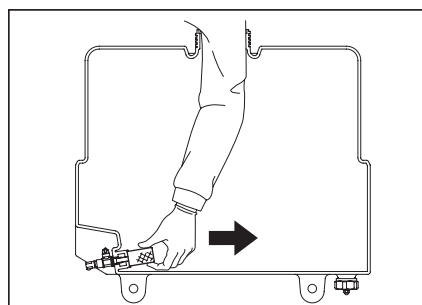
散水パイプの外し方

- 1) 散水パイプ取付ブラケットの下部を親指で押し下げながら、散水パイプを引き出します。
- 2) 散水パイプに接続されているホースを外します。



散水フィルタの外し方

- 1) 散水タンク内の水を抜きます。
- 2) 散水タンクに手を入れてタンク内左側下部にあるフィルタを引き抜きます。

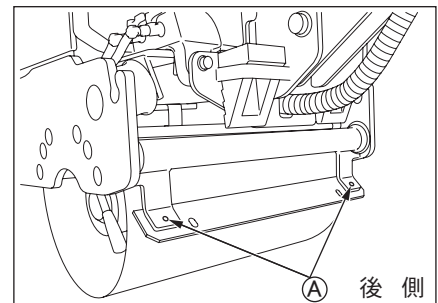
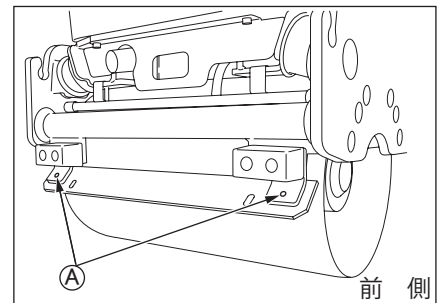


⚠ 注 意

- 散水フィルタを外す際は、作業に適した服装・保護具を着用してください。
散水タンク給水口や散水フィルタで腕や手に怪我をするおそれがあります。
- 散水フィルタは、やさしく脱着してください。
無理な力を加えると破損するおそれがあります。
- 散水タンク内で散水フィルタが破損している、または破損させた場合は、散水回路内に詰まり、正常に散水できなくなりますので、ドレンキャップを外して散水タンク内を十分に清掃してください。

2.8 スクレーパの調節

スクレーパーブレードのすきま調整は、ブレード取り付けボルト①を緩め、すき間が2～3mmになるように調整し、ボルトを締めてください。



2.9 作業上の注意事項

2.9.1 転圧作業時の注意

■固い所での振動はしない

- コンクリートなど固い所で振動をかけるとローラがとび上がって、車体に異常な衝撃を与え、防振ゴムなどを損傷しますから絶対に振動をかけないようにしてください。

■前後進切り換えはゆっくりと

- アスファルト転圧のときの前後進切り換えは、前後進レバーをできるだけ静かに入れてください。

2.9.2 降坂時の注意

■前後進レバーを操作する

- 降坂時たとえ短距離でも、前後進レバーを操作し、ゆっくり降りてください。

■エンジnbrakeを使用する

- 坂道では前後進レバーを操作し、エンジnbrake（HST ブレーキ）をかけながら降坂してください。

2.9.3 傾斜地での注意

■傾斜姿勢での作業注意

- 左右に急傾斜姿勢になる面での転圧作業は、できるだけ避けてください。

2. 取 扱

2.10 振動ローラとしての使用目的

- 1) 本機は主に次の作業にご使用ください。
 - 転圧作業
 - 振動転圧作業
- 2) ローラを利用して出来る仕事には次のような用途があり、呼び方により分類すると、つぎの通り区分できます。

工事種目別

- | | | |
|--------------|---------|--------------|
| • 道路アスファルト舗装 | • 盛土・切土 | • 建築基礎 |
| • 道路防塵処理 | • ダム | • 歩道・路肩・側溝基礎 |
| • 道路改良 | • 林道・農道 | |

締固め材料別

- | | | |
|-----------|----------|---------|
| • アスファルト系 | • 地山土 | • 敷砂・山砂 |
| • クラッシュラン | • 鉱サイ | |
| • セメント系 | • 軟岩・コア材 | |

作業内容別

- | | | |
|-------------|--------|--------|
| • 表層・基層・摩耗層 | • 路体盛土 | • ショルダ |
| • 路盤 | • 路床 | • 歩道表面 |

2.11 作業終了後の注意

泥や水などの付着物や足回りが凍りついたりして翌朝動けなくなるのを防ぐため、つぎのことを守ってください。

- 1) 車体に付着した泥や水を落としてください。特に、ロールとスクレーパーブレードの間についた水分を含んだ泥などは除去してください。
- 2) 固い乾燥した地面に駐車してください。
そのようなところがない場合には、地面に板を敷いて駐車してください。
- 3) バッテリーは低温での機能がいちじるしく低下しますので、覆いをするか、車体から外して暖かいところに置き、翌朝取り付けるようにし、保温に注意してください。
- 4) 散水凍結防止のため散水タンクの水抜きを行ってください。
〔水抜き方法は P.32 を参照してください〕

— [重 要] —

- 水を完全に除去しないと、装置の破損や故障の原因になります。
- 高圧洗浄をする際は、エンジン排気管より水が入らないように注意してください。
エンジンの故障の原因になります。

2.12 積込み、積降し方法

— ⚠ 警 告 —

- 道板には、幅・長さ・厚さなど十分に強度があり安全に積込み・積降しのできるものを使用してください。
道板のたわみ量が多いときはブロックなどで補強してください。
- 車両の積込み作業は、平たんで路面の硬いところを選んでください。また、路肩との距離を十分にとってください。
- 車両が道板上で横すべりしないように足回りの泥などをおとしてください。
道板上のグリース、オイルや氷などの付着物を取去り、きれいにしておいてください。
- 道板上では絶対に進路変更しないでください。進路変更するときは、いったん道板から降りて方向を直してください。
- 道板での機械積込み、積降し時にエンジンが停止した場合は、自重により機械が落下します。事故防止のため、必ず前後進レバーを“N（ニュートラル）”の位置に戻してください。
- 積込み、積降しのステアリング操作は危険です。おやめください。

積込み、積降しは移動式クレーンを使用するか、必ず道板または発送台を使って次頁のように行ってください。

2. 取 扱

2.12.1 移動式クレーンを使用する場合

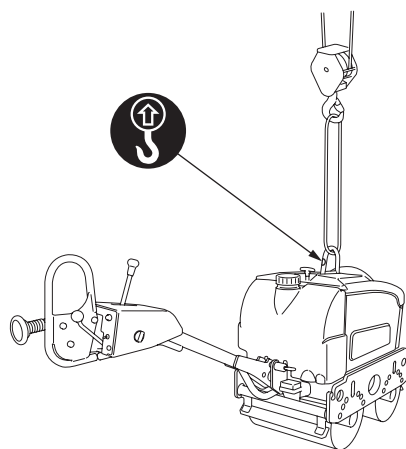
⚠ 警 告

移動式クレーンの運転、玉掛け作業は、資格を有する者が行ってください。

- 1) 移動式クレーン運転者は、作業開始前にあたって移動式クレーンの状態をあらかじめ定められた点検表にしたがってチェックしてください。
- 2) 玉掛け作業者は、吊り上げ用に使用する玉掛け用ワイヤロープを使用前に点検してください。
- 3) 積降しにあたっては、必ず両側のアウトリガーを張出し、敷板を使用してください。
- 4) 運搬用トラックの運転者は、駐車ブレーキを確実にかけ、タイヤに歯止めをし、動かないようにしてください。
- 5) 移動式クレーンの運転者、玉掛け作業者は、合図をよく確認して積降し作業を行ってください。
- 6) ローラにあらかじめ取り付けある吊り上げ用金具(フック)に玉掛け用ワイヤロープをかけ、車体のバランスを確認しながらゆっくり積降しをしてください。
- 7) 積降し時には、車体とワイヤロープ、その他の物と接触しないようにゆっくり行ってください。
- 8) 積込み時は、荷台の所定の位置に正しく積載してください。

⚠ 警 告

- クレーンのフックやワイヤロープがハンドルやレバーに当たらないよう十分注意してください。
- まっすぐ垂直方向に吊り上げます。危険防止のため横方向・縦方向・斜め方向の吊り上げは避けてください。



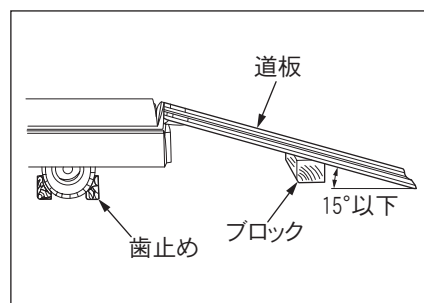
2.12.2 自走の場合

- 1) トラックのブレーキを確実にかけ、トラックのタイヤに歯止めをかませて動かないようにしてください。道板は、トラックと本機が中心が一致するように確実に固定してください。

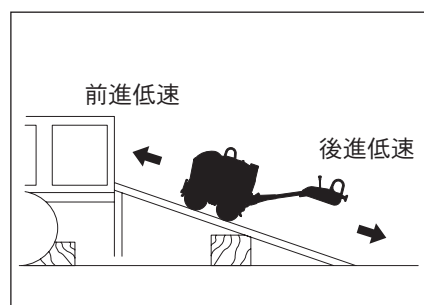
- ☆ 道板の角度は、15°以下で使用してください。
- ☆ 道板の間隔はローラの幅に合わせて設定してください。

⚠ 警 告

道板、ローラのロールに水、油、土等が付着していないことを確認してください。付着していれば、よくふきとってください。



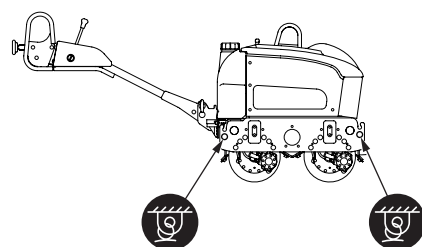
- 2) 道板に方向を定めてからゆっくり走行し積み、積降しをしてください。
積みは、前進低速で行ってください。
積降しは、後進低速で行ってください。
- 3) 運搬用トラックの所定の位置に正しく積載し、前後進レバーを“N（ニュートラル）”の位置にして、エンジンを停止してください。



2.13 積載時の注意

所定位置に積載後、車両をつぎの要領で固定してください。

- 1) 駐車ロックレバーを“ (P) ”の位置にしてください。
- 2) 積み込み後は、ローラが移送中に動かないように、ロールの前後に備え付けの歯止めをし、車体の前後をケン引フックなどを利用し、ワイヤロープで固定してください。
- 3) 積降し時にトラックに固定されているワイヤロープ等を取り外す場合は、ローラが移動していたり、浮いていたりしていないことを確認してから取外してください。



2. 取 扱

2.14 低温への備え

気温が低くなると、始動困難・冷却水凍結などが生じますので、つぎのようにしてください。

2.14.1 燃料・潤滑油脂

各装置の燃料・オイルは、粘度の低いものに交換してください。

指定粘度については、“推奨油脂（P.62）”の項を参照してください。

2.14.2 バッテリー

⚠ 警 告

- バッテリーは可燃性のガスを発生しますので、火気を近づけてはいけません。
- バッテリー液は危険物です。目や皮ふにつかないようにし、万一ついたときは多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

気温が下がると、バッテリー能力は低下し、充電率が少なくなりバッテリー液が凍結するおそれがありますので、充電率をできるだけ 100%に近い状態にし、保温に注意して翌朝の始動に備えてください。

バッテリーの状態はバッテリー上部についているハイドロメータで確認することができます。

- | | | |
|------|---|----------|
| グリーン | … | 良好な状態 |
| 白 | … | 充電が必要な状態 |
| 赤 | … | 交換が必要な状態 |

2.14.3 冷却水

⚠ 警 告

クーラントは、引火性がありますので、火気を近づけないでください。クーラントを取り扱うときは、喫煙しないでください。

⚠ 注 意

メタノール、エタノール、プロパノール系不凍液は絶対に使用しないでください。

常時、不凍液（ロングライフクーラント）をきれいな水（軟水）を混合した冷却水を使用してください。

外気温	全温度範囲
不凍液の量	0.6 ℓ
水の量	0.6 ℓ
濃 度	50%

当社の車両にはロングライフクーラントが注入されております。

本不凍液は 2 年間の使用が可能です。

交換の際はノンアミンタイプのロングライフクーラントを注入してください。

2.15 寒冷時が過ぎたら

季節が変わり、気温が暖かくなってきたら、つぎようにしてください。

各装置のオイルや燃料は、指定潤滑油脂の使用方法にしたがって、指定粘度のものに交換してください。

2.16 休車前

休車を 1 ヶ月以上するときは、つぎのように格納してください。

- 1) 各部の洗浄・掃除後、屋内に格納してください。やむを得ず屋外におくときは、平坦地を選んで車両全体に覆いをしてください。
- 2) 給油・給脂・オイル交換を、もれなく行ってください。
- 3) バッテリーは、マイナス端子を外し、覆いをするか、車から降ろして保管してください。
- 4) 気温が 0℃以下に下がるときは、冷却水の比重を確認してください。
- 5) 散水系統の水は、完全に抜いておいてください。
- 6) 前後進レバーは“N（ニュートラル）”、振動スイッチは“OFF”の位置にし、駐車ロックレバーを“ (P) ”の位置にしてください。
- 7) ローラの前後に備え付けの歯止めをしてください。
- 8) 始動スイッチキーは、必ず持ち帰ってください。

2. 取 扱

2.17 休車中

⚠ 警 告

やむを得ず屋内で防錆運転するときは、ガス中毒の防止のために窓や入口をあけて換気をよくしてください。

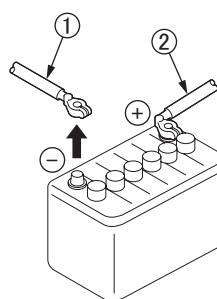
休車期間中は、月に一度車を動かし、潤滑油に油膜切れを防ぎ、同時にバッテリーも充電してください。

2.18 バッテリーが放電したときは

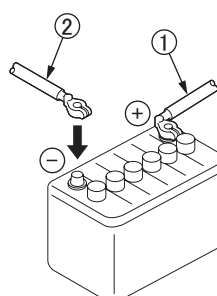
⚠ 警 告

- バッテリーの点検・取り扱いは、エンジン停止、始動スイッチを“切”の状態で行ってください。
- バッテリーは、水素ガスを発生しますので、爆発のおそれがあります。煙草などの火気を近づけたり、スパークを起こすような行為は行わないでください。
- バッテリー液は希硫酸ですので、衣服や皮ふを冒します。もしバッテリー液が衣服や皮ふに付着したら、すぐに、多量の清水で洗い落してください。目に入ったときは、直ちに清水で洗い、その後、医師の診療を受けてください。
- 取り外しは、アース側（通常は⊖端子側）から行い、取付は、逆に⊕端子から行ってください。⊕端子と車体の間に工具などが触れるとスパークをおこし危険です。
- 端子が緩んでいると、接触不能によりスパークが発生し爆発の危険があります。端子を取り付けるときは、しっかり取り付けてください。

取り外しはアース側から



取り付けは⊕端子側から

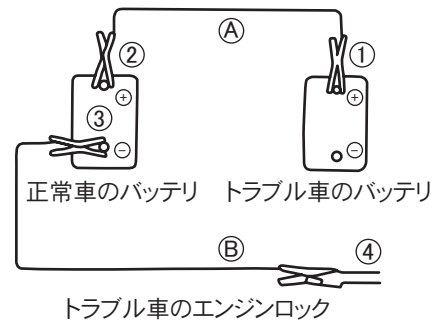


2.18.1 ブースタケーブルの接続、取り外し

ブースタケーブルを使ってエンジンを始動するときは、次のようにしてブースタケーブルを接続します。

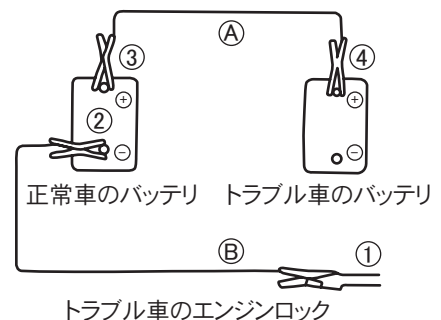
■ブースタケーブルの接続

- 1) トラブル車の⊕端子に、ブースタケーブル①のクリップを接続します。
- 2) 正常車の⊕端子に、ブースタケーブル②のクリップを接続します。
- 3) 正常車の⊖端子に、ブースタケーブル③のクリップを接続します。
- 4) トラブル車のエンジブロックにブースタケーブル④のクリップを接続します。



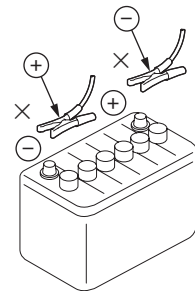
■ブースタケーブルの取り外し

- 1) トラブル車のエンジブロックに接続してあるブースタケーブル④のクリップを外します。
- 2) 正常車の⊖端子に接続してあるブースタケーブル③のクリップを外します。
- 3) 正常車の⊕端子に接続してあるブースタケーブル②のクリップを外します。
- 4) トラブル車の⊕端子に接続してあるブースタケーブル①のクリップを外します。



⚠ 警 告

- ケーブルを接続するときは、⊕と⊖端子を絶対に接触させてはいけません。
- ブースタケーブルを使って始動するときは保護メガネを使用してください。
- 正常車とトラブル車を接触させないようにしてください。
- ブースタケーブルの接続を間違えないでください。また、最後の接続は、トラブル車のエンジブロックに接続しますが、このとき、スパークが発生しますので、バッテリーからできるだけ離れている場所に接続してください。



2. 取 扱

⚠ 注 意

- ブースタケーブルやクリップの太さはバッテリーの大きさに適したものを使用してください。
- 正常車のバッテリーは、トラブル車のバッテリーと同容量のものを使用してください。
- ケーブルとクリップに破損および腐食がないか点検してください。
- クリップはしっかりと接続してください。

2.19 エンジンシリンダー内部への水侵入によるエンジントラブル防止 (ウォーターハンマー対策)

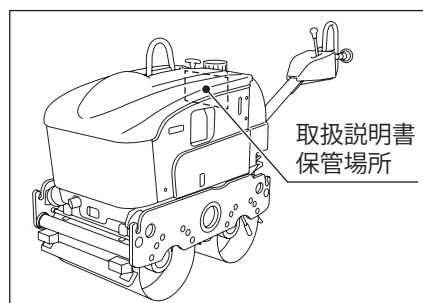
エンジンシリンダー内部への水侵入によるエンジントラブル防止のため、下記事項に注意してください。

2.19.1 水侵入防止対策

機械洗浄の際、高圧洗浄機等による排気口への直接噴霧は行わないでください。または、排気口をカバーするなどの水侵入防止対策を行ってください。

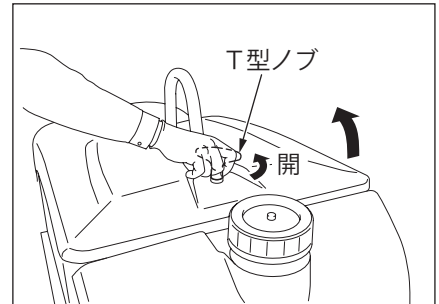
2.20 上フード／左側面カバーの開閉方法

取扱説明書はエンジンルーム内の散水タンク前面に保管されています。



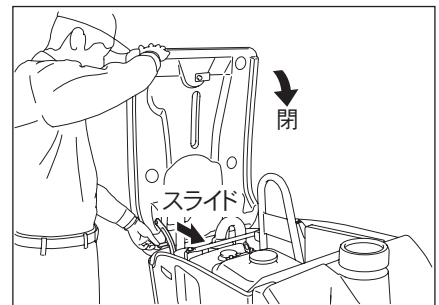
2.20.1 上フードの開け方

- 上フード上面にある T 型ノブを反時計方向に回転させ、上フードのロックを解除します。
- T 型ノブを上方に引き上げフードを開け、ストッパに当たるまで開けます。
- 手を放すと、上フードの自重により開いた状態で固定されます。



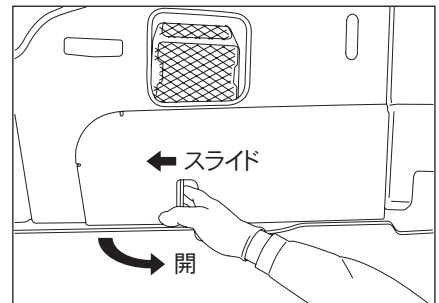
2.20.2 上フードの閉め方

- 上フードを開ける方向に少し引き上げ、上フードストッパのノブを車両後方方向にスライドさせると上フードストッパのロックが解除されます。
- 上フードをゆっくり閉じ、完全に閉じた状態で T 型ノブを時計方向に回転させ、上フードをロックします。



2.20.3 左側面カバーの開け方

- 左側面カバーのノブ穴に指を入れ、車両前方方向にノブをスライドさせるとロックが解除され、カバーを車両左側方向に引くと開きます。



2.20.4 左側面カバーの閉め方

- 左側面カバーをストッパに当てるまで閉じると、自動的にロックされます。

⚠ 警 告

フードを開けた状態でエンジンの始動を行わないでください。

3. 点検・整備

3 点検・整備

3.1 整備上の注意

1) 点検・整備に際して

点検・整備・給油等を実際に行うかどうかは、機械の故障や寿命に著しい影響を与えます。本書では標準的な点検・整備の期間について説明してありますが、現場状況や作業状況など使用条件により期間の短縮や内容の充実をはかって、常に最良の状態でお使いください。

— [重 要] —

保守・点検を行った際は、点検結果を記録してください。

なお、フィルタ・エレメント類、油脂類の補充交換は重要項目ですので留意してください。

2) 一般的注意

- 1 交換部品には、SAKAI 純正部品を使用してください。
- 2 油脂類は、当社推奨油脂を使用してください。また他銘柄の混用は避けてください。
- 3 作動油の補給、交換、油量点検、フィルタの清掃、交換および各部の給脂にあたっては、塵芥の混入に細心の注意を払ってください。
- 4 油量点検、交換に際しては本機を平坦地に停車させて行ってください。
- 5 油の交換は、運転終了後油温のあたかいうちに行ってください。また排油に際してはヤケドしないように十分注意して行ってください。
- 6 長期にわたる休止期間中は、燃料タンクを満タンにして 1 ヶ月ごとに各部グリースアップの上 20 分間以上の運転を行ってください。
- 7 寒冷時は、冷却水のクーラントを予想される凍結防止に必要な濃度にしてください。
- 8 油圧ポンプ・油圧モータの整備は、当社もしくは当社指定工場へご連絡ください。
- 9 配線の断線、ショートおよびターミナルの緩み等の修理交換は、必ず始動スイッチを切って行ってください。

3) 重要保安部品の定期交換について

作業上、運行上の安全を確保するために、点検・整備の実施をお願いいたします。

また、安全性をより高めるために下記の部品については、定期交換を行うようお願いいたします。車両における下記の採用部品は、経年変化により材質が劣化したり、摩耗により変化し易いもので、定期点検で使用限度を判定することが難しいため、一定の使用期間後は、新品と交換して常に完全な機能を維持する必要があります。

なお、亀裂、変形、摩耗、油漏れ等異常がある場合には、定期交換時間内でも交換をお願いいたします。

装置・機構	部品名称	定期交換保安部品	交換時間	備 考
1 制御装置	マスターシリンダ	シール類（ゴム部品）	2 年	
	ホイールシリンダ	シール類（ゴム部品）	2 年	
	ブレーキ配管部品	ブレーキホース	2 年	
		エアホース	2 年	
	操作部品	ケーブル	4 年	
2 かじとり装置	オービットロール	シール類（ゴム部品）	2 年	
	油圧配管部品	油圧ホース	2 年	
	ステアリングシリンダ	シール類（ゴム部品）	2 年	
	油圧ポンプ	シール類（ゴム部品）	4 年	
3 動力伝達装置 （アクスル含む）	アクスル	シール類（ゴム部品）	4 年	
	走行ポンプ	シール類（ゴム部品）	4 年	
	走行モータ	シール類（ゴム部品）	4 年	
	油圧配管部品	油圧ホース	4 年	
	防振ゴム	防振ゴム本体	4 年	
4 燃料装置	配管部品	燃料ホース	2 年	
5 エンジン関係	エンジン取り付け部品	防振ゴム	4 年	
	シール類（ゴム部品）	パッキン類他	4 年	
	駆動用部品	V- ベルト	2 年	または 500 時間
	配管部品	エンジンドレンホース	4 年	
6 冷却関係	配管部品	ラジエータホース	2 年	
		ラジエータドレンホース	4 年	
7 コントロール関係	ケーブル	ケーブル	4 年	
8 吸気関係	配管部品	吸気ホース	2 年	
		CAC ホース	2 年	
9 作業装置	油圧配管部品	油圧ホース	4 年	

3. 点検・整備

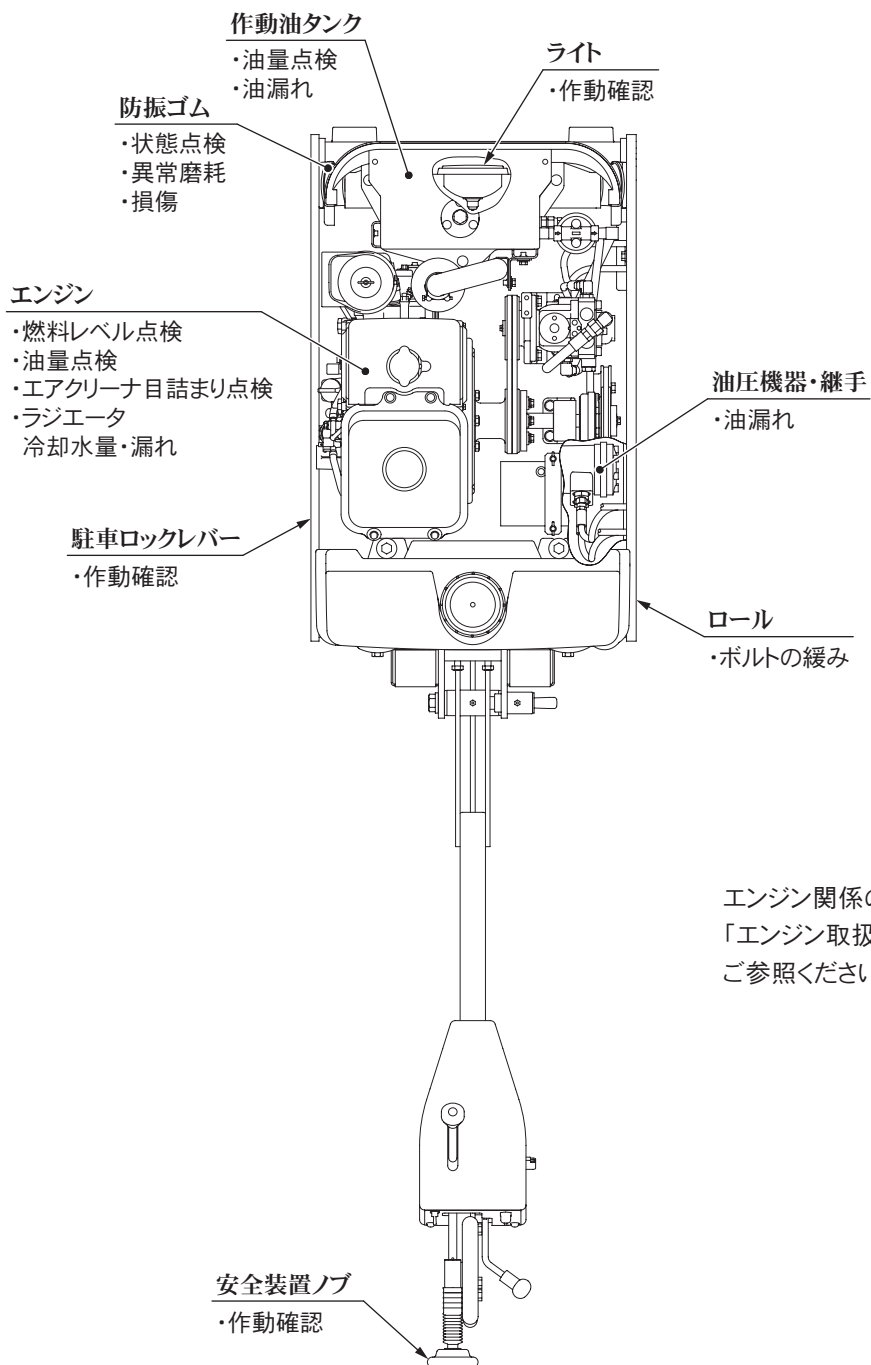
⚠ 注 意

- 新車購入後、駆動ベルトの調整 (P.52)、エンジンオイルの交換 (P.53)、ファンベルトの調整 (P.54) は、初回のみ 20 時間で行ってください。
- 電気配線は 1 ヶ月を超えない期間ごとに、1 回の定期点検を行い、異常がある場合には、交換を行ってください。
 - 1) ワイヤハーネスの損傷およびクランプの緩みを調べてください。
 - 2) ソケットの緩みを調べてください。
 - 3) 各電気装置が確実に作動するか調べてください。
- 上記重要保安部品（配管系、シール類、ゴム部品等）以外の部品においても、定期点検等で異常が確認された場合や、日常にて異常を発見した場合には、速やかに交換を行ってください。

3.2 始業点検

始業点検について

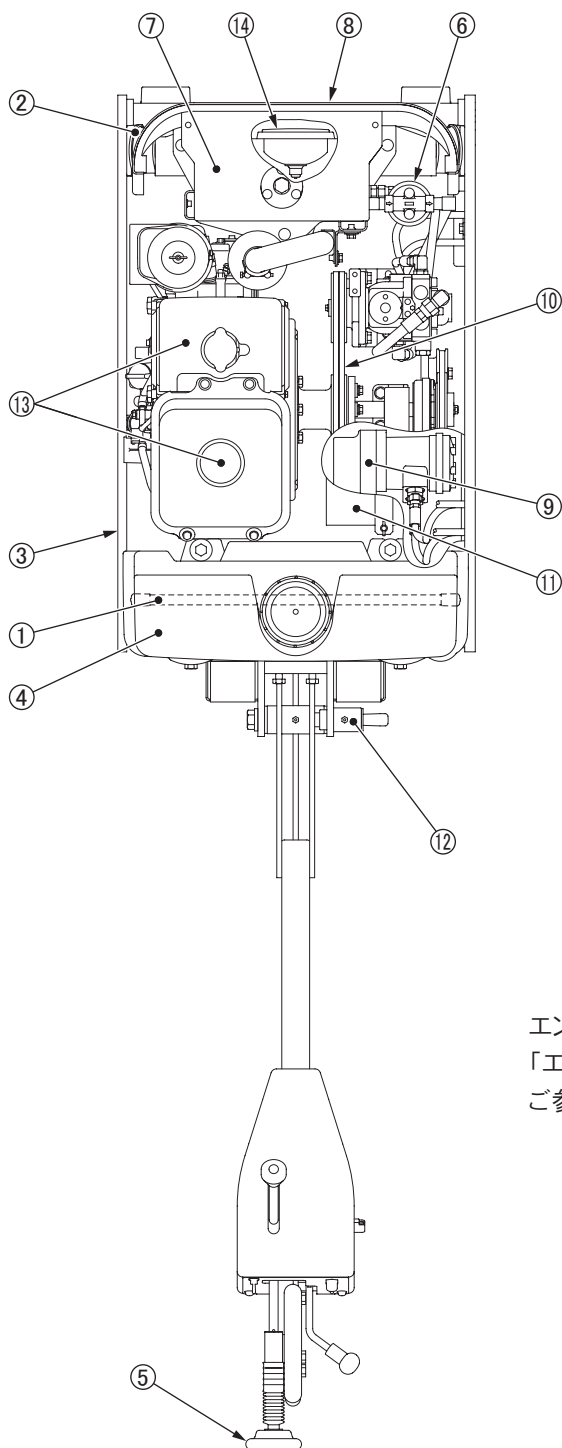
本機を能率よく稼働させるために日々の始業点検が大切です。そのため、本機使用の際には、下記のほかに周囲や下部を見わたして、ボルトやナットの緩み、油漏れなど車両の状態を点検してください。



エンジン関係の整備には別冊「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

3. 点検・整備

3.3 日常点検



エンジン関係の整備には別冊
「エンジン取扱説明書」を
ご参照ください。

3. 点検・整備

点検時期	記号	点検箇所	点検・整備内容	油脂類	数
10 時間毎 (毎日)	⑦	作動油タンク	油量点検・補給	作動油	1
	⑪	バッテリー	状態点検		1
	⑬	エアクリーナ	点検またはエレメント清掃		1
		エンジンクランクケース	油量、漏れ点検・補給	エンジンオイル	1
		燃料タンク	油量、漏れ点検・補給	軽油	1
		ラジエータ	冷却水量、漏れ点検・補給	クーラント	1
100 時間毎	⑩	駆動ベルト	張り具合点検・調整		2
	⑬	エアクリーナ	清掃またはエレメント交換		1
		冷却ファン	外観点検		1
		エンジンクランクケース	油交換	エンジンオイル	1
		エンジンクランクケース	エレメント清掃		1
		ファンベルト	緩み点検・調整		1
		燃料フィルタ	清掃		1
200 時間毎	⑥	作動油フィルタ	エレメント交換		1
	⑨	減速機	給脂	グリース	2
	⑬	燃料タンク	清掃		1
450 時間毎	⑬	燃料フィルタ	エレメント交換		1
		ラジエータ	内部清掃		1
500 時間毎	⑦	作動油タンク	油交換・内部清掃	作動油	1
1 年または 6 回清掃毎	⑬	エアクリーナ	エレメント交換		1
2 年または 500 時間毎	⑬	ファンベルト	ベルト交換		1
2 年毎	⑬	ラジエータ	冷却水交換	クーラント	1
適 時	①	散水パイプ	清掃または交換		2
	②	防振ゴム	外観点検		4
	③	駐車ロックレバー	状態点検		1
	④	散水タンク	内部洗浄		1
	⑤	安全装置ノブ	給脂	グリース	1
	⑧	スクレーパ	調整またはブレード交換		4
	⑫	コントロールハンドル	給脂	グリース	1
	⑬	ラジエータ	清掃		1
	⑭	電球	点灯点検		1

3. 点検・整備

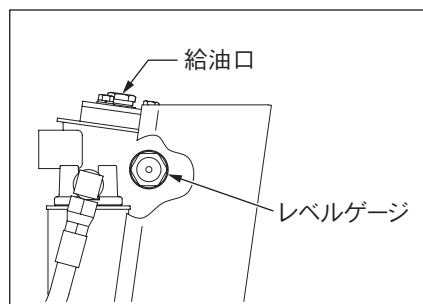
3.4 作業手順

➡ エンジン関係の整備には別冊「エンジン取扱説明書」をお読みください。

(1) 10 時間ごと（毎日）

⑦ 作動油タンク

- 1) レベルゲージで油量を点検します。
- 2) オイルがレベルゲージの中間にあれば適正です。
- 3) 不足しているときは、給油口から補給してください。



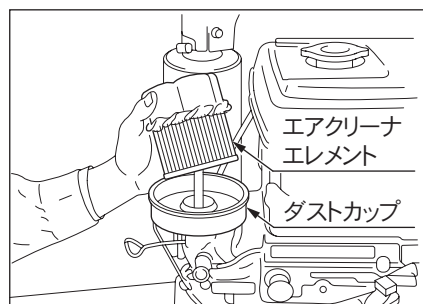
⑪ バッテリー

- 1) バッテリーの状態を確認し、必要であれば充電、交換を行ってください。
バッテリーの状態は上部についているハイドロメーターの色によって確認できます。
グリーン・・・良好な状態
白・・・充電が必要な状態
赤・・・交換が必要な状態
- 2) ターミナルの緩みがあるときは確実に締め付け、防錆のためワセリンかグリースを薄く塗っておきます。

⑬ エアクリーナ

➡ 「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

- 1) ダストカップにたまったゴミを捨て、内部をきれいにふいてください。
- 2) エレメントは軽くたたきながらゴミを落とすか、内部からエアーを吹きつけて清掃してください。



⚠ 警告

ゴミが目に入らないよう注意してください。

3. 点検・整備

〔注 記〕

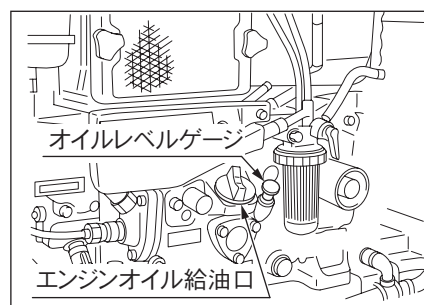
普通の使用状態では、エレメントを 6 回清掃または 1 年ごとに新品と交換してください。

〔重 要〕

- ・ ホコリやゴミの多いところでは、必要に応じ早目に清掃してください。
- ・ きずがついたり穴のあいたエレメントは新品と交換してください。

⑬ エンジンクランクケース

エンジンを水平状態にして、エンジンオイルの量を点検します。オイルレベルゲージの油面標示マークの間になれば補給します。



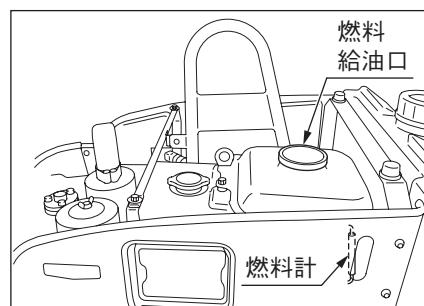
⑬ 燃料タンク

燃料計で油量を点検します。



警 告

油量の点検は、車両を平坦地に停車させて行ってください。



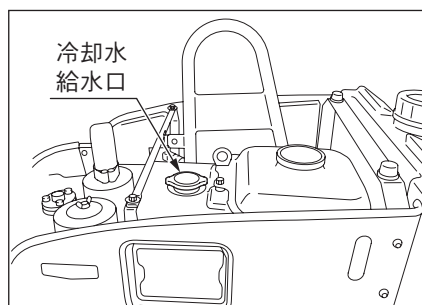
3. 点検・整備

⑬ ラジエータ

冷却水が給水口の口元まで入っているか確認し、不足なら冷却水を補給します。

⚠ 警 告

冷却水の水温が高いときは、キャップを外さないでください。



(2) 100 時間ごと

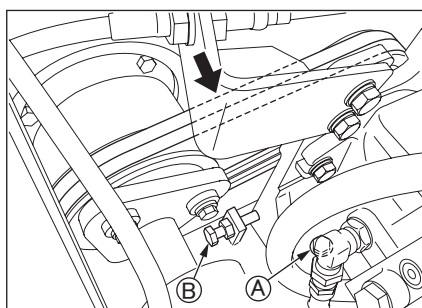
⑩ 駆動ベルト

1) 張り具合点検

ベルトの張り具合は、ベルトの中央部を約 3kg で押したときに 2 ～ 3mm たわむ程度が最適です。

2) 調整方法

ポンプブラケット取付ボルト①（2 カ所）を緩め、調整ボルト②のナットを緩め、調整ボルトによりベルトの張りを調整します。調整後、緩めたボルト、ナットを締め付けます。



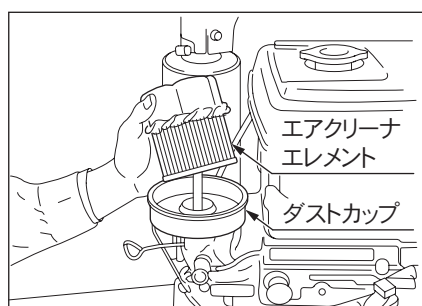
〔重 要〕

新車購入後、V ベルトは初回のみ 20 時間で調整してください。

⑬ エアクリーナ

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

- 1) ダストカップにたまったゴミを捨て、内部をきれいにふいてください。
- 2) エレメントは軽くたたきながらゴミを落とすか、内部からエアーを吹きつけて清掃してください。



⚠ 警 告

ゴミが目に入らないように注意してください。

〔注 記〕

普通の使用状態では、エレメントを 6 回清掃または 1 年ごとに新品と交換してください。

〔重 要〕

- ・ ホコリやゴミの多いところでは、必要に応じ早目に清掃してください。
- ・ きずがついたり穴のあいたエレメントは新品と交換してください。

⑬ 冷却ファン

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

冷却ファンの損傷の有無を点検し、損傷のあるものは交換してください。

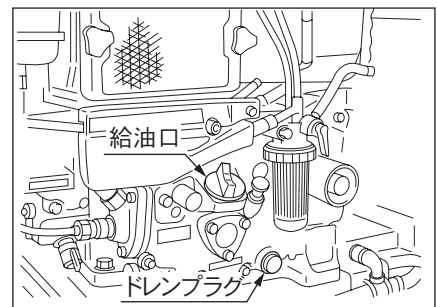
⑬ エンジンクランクケース

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

- 1) エンジンオイルの交換をします。
- 2) 運転終了後、油温が下がらないうちにドレンプラグを外して排油します。
- 3) ドレンプラグを取付け、給油口から給油します。

⚠ 警 告

油温が高温のため、排油に際してはヤケドしないよう注意してください。



〔重 要〕

新車購入後、初回のみ 20 時間でオイル交換をしてください。

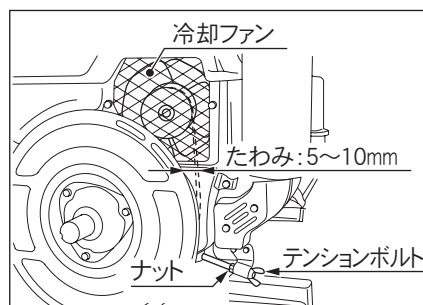
- 4) オイルフィルタを軽油で清掃します。

3. 点検・整備

⑬ ファンベルト

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

- 1) 張り具合点検
プーリとプーリの間を指で押し、5 ～ 10mm たわむ程度にきつく張ってください。
- 2) 調整方法
ナットを緩め、テンションボルトを右に回して張ってからナットを固く締めてください。



【注 記】

ファンベルトは 2 年または 500 時間ごとに交換してください。

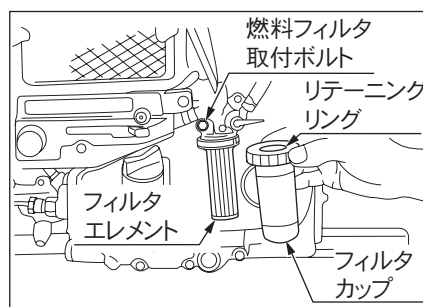
【重 要】

新車購入後 V ベルトは、初回のみ 20 時間後で調整してください。

⑬ 燃料フィルタ

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

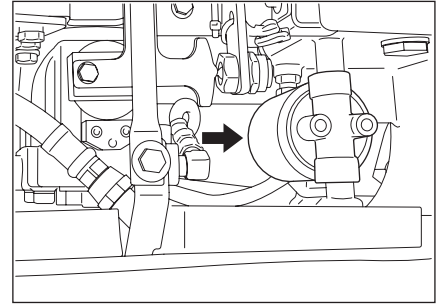
- 1) フィルタカップを取り外し、底にたまったゴミや水を捨ててください。
- 2) フィルタカップやエレメントは新しい洗い油の中ですすぎ洗いをしてください。



(3) 200 時間ごと

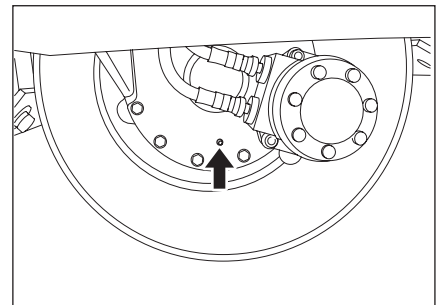
⑥ 作動油フィルタ

フィルタカートリッジを交換してください。



⑨ 減速機

前輪と後輪の減速機にグリースを充填します。



⑬ 燃料タンク

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

タンクの内部を洗浄し、タンクの底にたまっているゴミ等沈殿物を排出します。

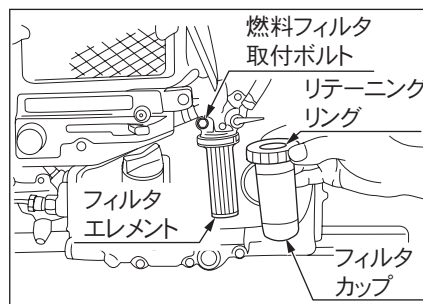
3. 点検・整備

(4) 450 時間ごと

⑬ 燃料フィルタ

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

燃料フィルタエレメントを交換してください。



⑬ ラジエータ

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

ラジエータの内部を清掃してください。

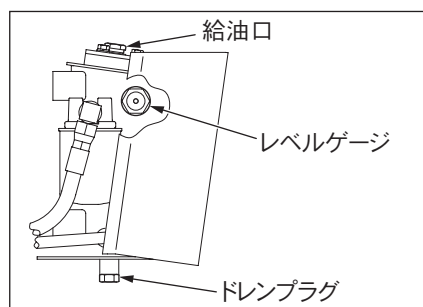
— [注 記] —

冷却水（クーラント）は 2 年ごとに交換してください。

(5) 500 時間ごと

⑦ 作動油タンク

- 1) オイルが暖かいうちに作動油タンクのドレンプラグを外し、オイルを排出します。
- 2) タンク内部を洗浄後、新しい作動油を規定レベルまで給油します。
- 3) エンジンを始動し、アイドリングにて 2～5 分間回転させます。油中に気泡がなくなったのを確認したらエンジンを停止し、再び油量を点検してください。



— ⚠ 警 告 —

オイル交換時にオイルを排出する際は、オイルが高温になっているためヤケドに注意してください。

(6) 必要に応じて行う点検・整備

① 散水パイプ

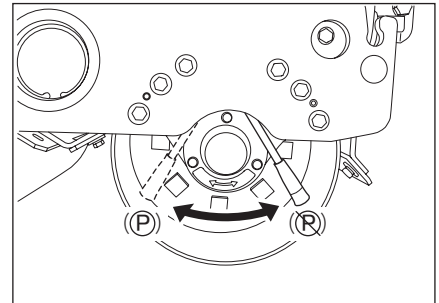
- 1) クランプから散水パイプを外します。
- 2) 両端のキャップを外します。
- 3) パイプの内部を水で清掃し、パイプ穴のゴミ（目詰まりの原因）を除去してください。

② 防振ゴム

防振ゴムに亀裂がないか、また取付ボルトは緩んでいないか点検してください。

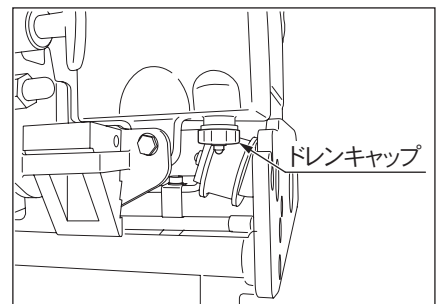
③ 駐車ロックレバー

ロックレバー操作時にスムーズに動作するかどうかチェックしてください。



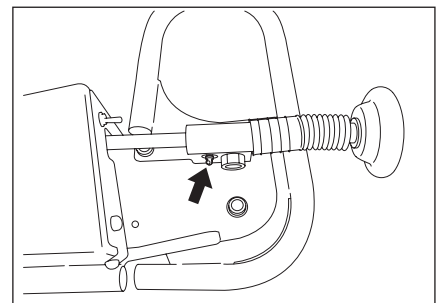
④ 散水タンク

- 1) ドレンキャップを開きます。
- 2) 給水口から水を充填してタンク内の堆積物を排出します。



⑤ 安全装置ノブ

安全装置ノブのパイプ部に給脂します。

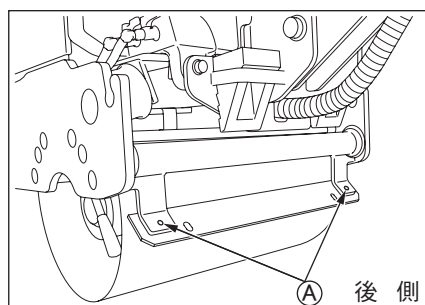
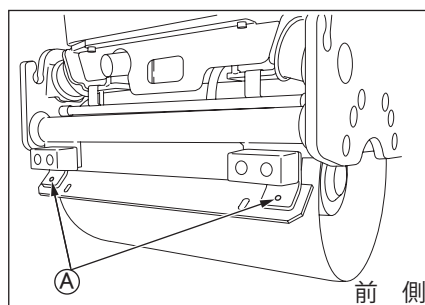


3. 点検・整備

⑧ スクレーパ

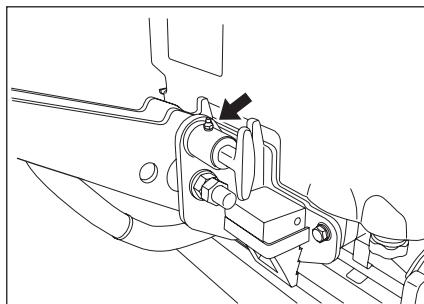
ブレード取付ボルト①を緩め、スクレーパブレードの隙間を2～3mmに調整してから、ボルトを締めなおしてください。

ブレードが損傷している場合は新品と交換してください。



⑫ コントロールハンドル

ハンドルのロックピンに給脂します。



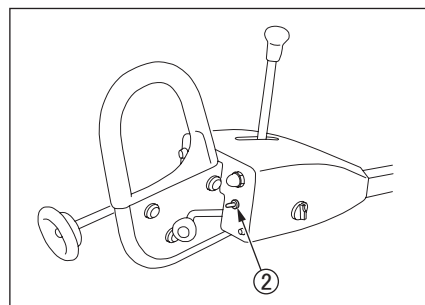
⑬ ラジエータ

➡「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

フィンの目づまりを清掃してください。

⑭ 電球

コントロールカバーのスイッチ②を操作し、ライトが確実に点灯するか点検してください。点灯しない場合は、新品と交換してください。



3. 点検・整備

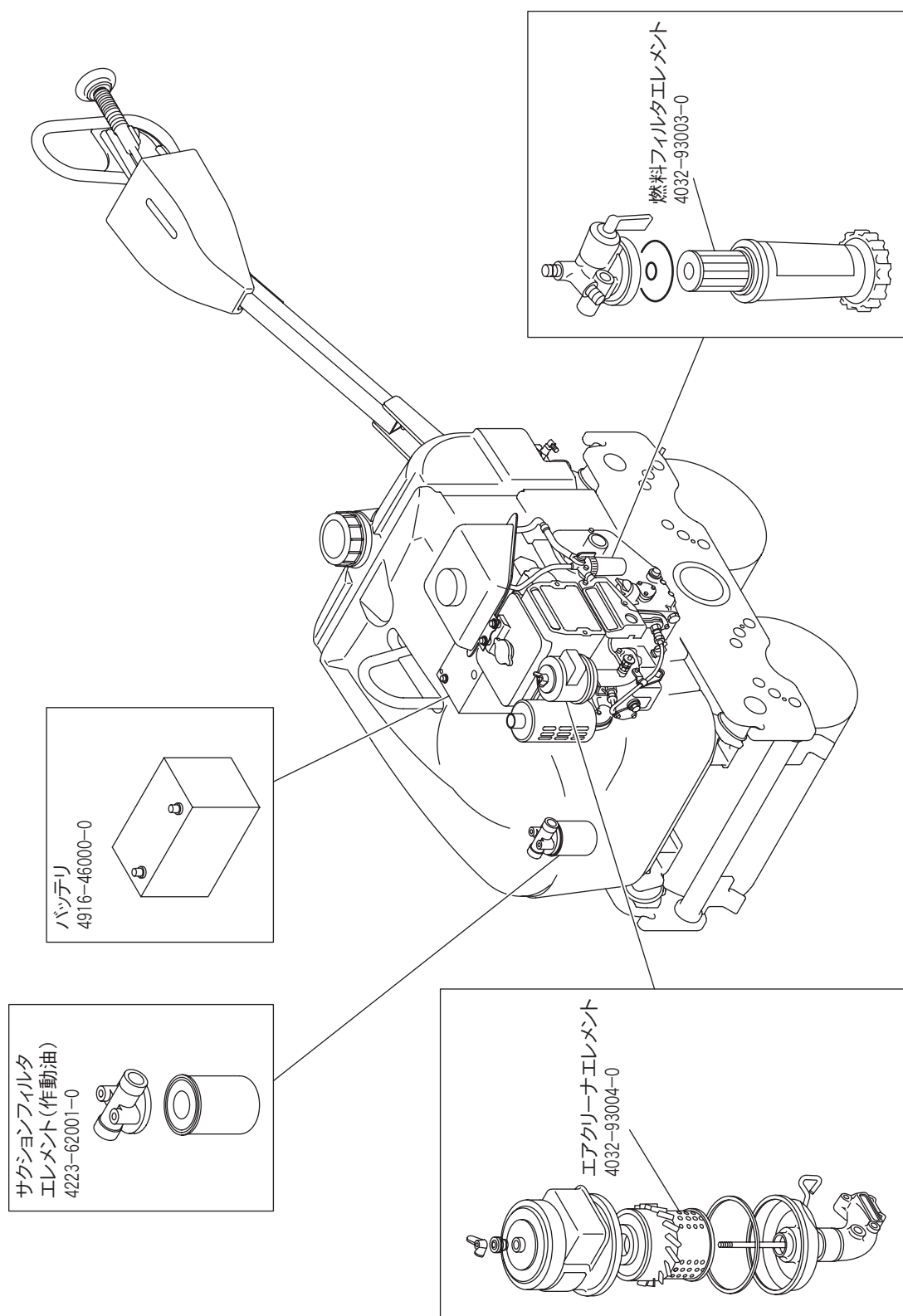
3.5 消耗部品

フィルタエレメント、エアークリーナエレメントなどの消耗部品は、定期点検整備時または摩耗限度前に交換してください。消耗部品を確実に交換し、本機をより経済的に使用してください。

また、交換部品には SAKAI 純正部品を使用してください。

製品改良のため、部品番号が変更されることがありますので、部品を発注される際には、当社販売代理店、サービス指定工場に機種名、車体型式、車体番号（号機）を伝えて最新の品番を確認してください。

消 耗 部 品 項 目	部 品 番 号	交換時期		備 考
		年ごと 交換(年)	稼働時間ごと 交換(時間)	
燃料フィルタエレメント	4032-93003-0		450	
エアークリーナエレメント	4032-93004-0		6 回清掃ごと	
サクションフィルタエレメント（作動油）	4223-62001-0		200	洗浄または交換
バッテリー	4916-46000-0		適時交換	42B19R



3. 点検・整備

3.6 給水・給油にあたり

3.6.1 給水・給油にあたり

- 1) ストレーナを取り外しての給水・給油は絶対に行わないでください。
- 2) 使用する潤滑油脂および作動油は、推奨油脂銘柄表の中から選んでください。
- 3) 潤滑油および作動油は、異なった銘柄の混用は避けてください。
- 4) 油の「交換」を行うときは、完全に油を排出し、フラッシングオイルで洗浄した後に新しい油を入れてください。

3.6.2 水・油の容量

補 給 箇 所	種 類	容 量
		HV520/HV620
燃 料 タ ン ク	軽 油	4.8 ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル パ ン	エンジンオイル	1.3 ℓ
作 動 油 タ ン ク	作 動 油	10.6 ℓ
ラ ジ エ ー タ	冷 却 水	1.2 ℓ
散 水 タ ン ク	水	35 ℓ

3.6.3 推奨油脂

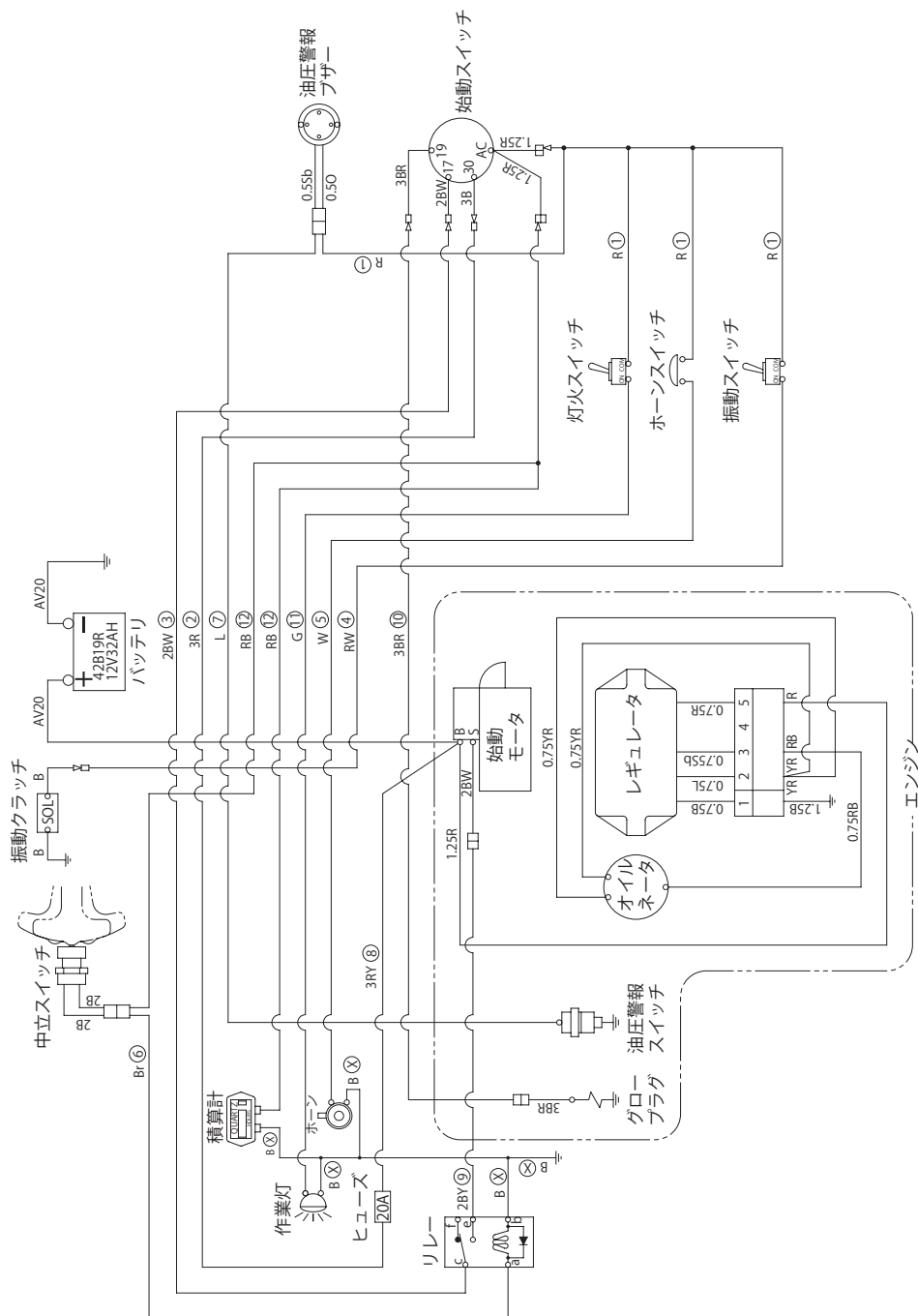
油 脂 名	サービス分類	気温と適用粘度グレード			相 当 規 格
		-15～30℃ 寒 冷 地 域	0～40℃ 温 暖 地 域	5～55℃ 高 温 地 域	
エンジンオイル	API-CD 級以上	SAE 10W-30	SAE 10W-30	SAE 40	MIL-L-2104C
作 動 油	耐 摩 耗 性	ISO-VG32 VI 140 以上	ISO-VG32 VI 140 以上	ISO-VG68 VI 110 以上	ISO-3448
グ リ ー ス	リチウム系極圧タイプ NLGI-2				
燃 料	軽油 JIS・K2204-2 号 ASTM・D975-2D				

3.6.4 推奨油脂銘柄表

	エンジンオイル	作 動 油	グリース
JX 日 鉱 日 石 エ ネ ル ギ ー	—	ハイランドワイド 32	エピノック グリース AP(N)2
出 光 興 産	アポロイル カスタムワイド SS 10W-30	ダフニー スーパーハイドロ X 32	ダフニー エポネックス EP 2
コ ス モ 石 油	—	コスモハイドロ HV 32	コスモグリース ダイナマックス EP No.2
昭和シェル石油	シェルリムラDマルチ 10W-30	シェルテラス S2 V 32	シェル アルバニヤ EP グリース 2
EMG マーケティング (モ ー ビ ル)	モービル デルバック MX 10W-30	モービル DTE 10 Excel 32	モービラックス EP 2

3. 点検・整備

3.7 電気系結線図



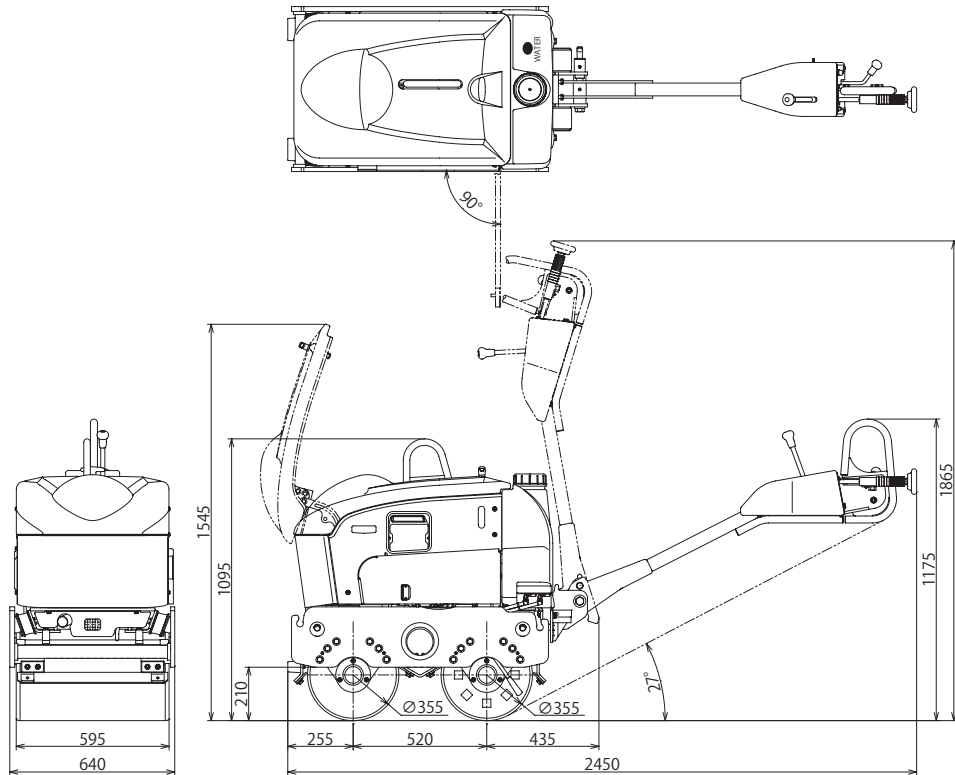
電線の色

⚠ 指示なき電線の太さはAV0.85です。

B	黑	Br茶	綠	綠	赤	青	P	桃	RW	赤	白	WR	白	赤	YR	黃	赤	紅
BR	黑	Br茶	綠	綠	赤	青	R		RY	赤	白	Y	黃	黃	YW	黃	白	白
BY	黑	G	綠	綠	赤	青	RG	赤	WB	白		Y	黃	黑	BY	茶	黃	黃
Br	黑	GL綠	綠	灰	青	Q	若	赤	WB	白	黑	YG	黃	綠	Sb	茶	空	空
		GL綠	青	青	青	L	橙	赤	WB	白	青	YL	黃	青				

4 全体図・諸元

(1) HV520

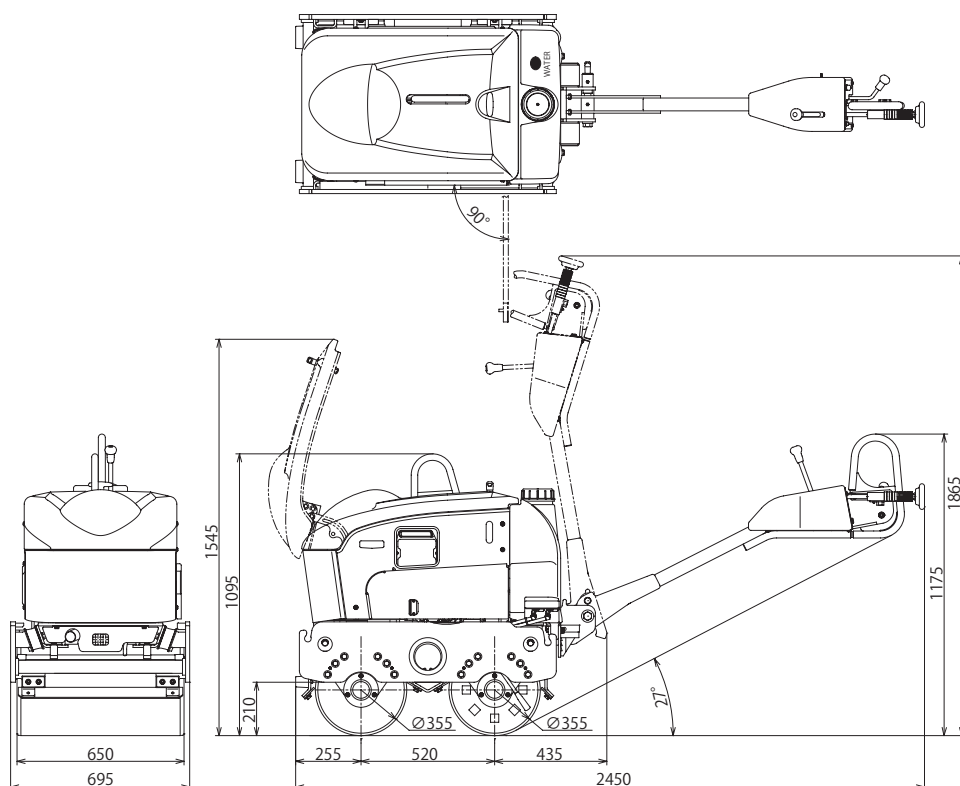


型 式			HV520		性 能	速 度	0 ～ 3.0 km/h
質 量	運 転 質 量		620 kg			登 坂 能 力	21 度
	機 械 質 量		585 kg		エ ン ジ ン	メーカ－：型式	クボタ E75-E3-NB3 (ディーゼルエンジン)
寸 法	全 長		2,450 mm			総 工 程 容 積	0.325 ℓ {325cc}
	全 幅		640 mm			定 格 出 力	4.2 kW {5.7PS}/ 2,100 min ⁻¹
	全 高		1,175 mm			最 大 ト ル ク	18.1N・m {1.8kgf・m}/ 2,000 min ⁻¹
	ロ ー ル 径 × 幅		355 mm × 595 mm			バ ッ テ リ	12V 32Ah
	軸 距		520 mm				
性 能	締 固 め 幅		595 mm				
	起振機	起振力	9.8kN {1,000kgf}				
		振動数	60Hz {3,600vpm}				

*登坂能力は、設計算定値を示し、路面の状況によって変わりますので注意してください。

4. 全体図・諸元

(2) HV620



型 式			HV620		性 能	速 度	0 ～ 3.0 km/h
質 量	運 転 質 量		640 kg			登 坂 能 力	21 度
	機 械 質 量		605 kg		エ ン ジ ン	メーカ－：型式	クボタ E75-E3-NB3 (ディーゼルエンジン)
寸 法	全 長		2,450 mm			総 工 程 容 積	0.325 ℓ {325cc}
	全 幅		695 mm			定 格 出 力	4.2 kW {5.7PS}/ 2,100 min ⁻¹
	全 高		1,175 mm			最 大 ト ル ク	18.1N・m {1.8kgf・m}/ 2,000 min ⁻¹
	ロ ー ル 径 × 幅		355 mm × 650 mm			バ ッ テ リ	12V 32Ah
	軸 距		520 mm				
性 能	締 固 め 幅		650 mm				
	起振機	起振力	11.8kN {1,200kgf}				
		振動数	60Hz {3,600vpm}				

*登坂能力は、設計算定値を示し、路面の状況によって変わりますので注意してください。

平成 27 年 10 月

不許複製

HV シリーズ 振動ローラ

HV520 HV620

取 扱 説 明 書

酒井重工業株式会社

本 社 東京都港区芝大門 1-4-8 浜松町清和ビル 電話 03 (3434) 3401 (代表)
グローバル サービス部 埼 玉 県 久 喜 市 高 柳 2500 電話 0480 (52) 1111 (代表)

2020.07.300 ④[Ⓐ]

酒井重工業株式會社